

大阪大学セミナー

光を用いた放射線測定器

神戸大学
伊藤 博士

2017年10月27日

H棟6階 H601 セミナー室B

INDEX

1. 光検出器による放射線検出器の基礎
2. 素核実験検出器
3. 環境放射能測定

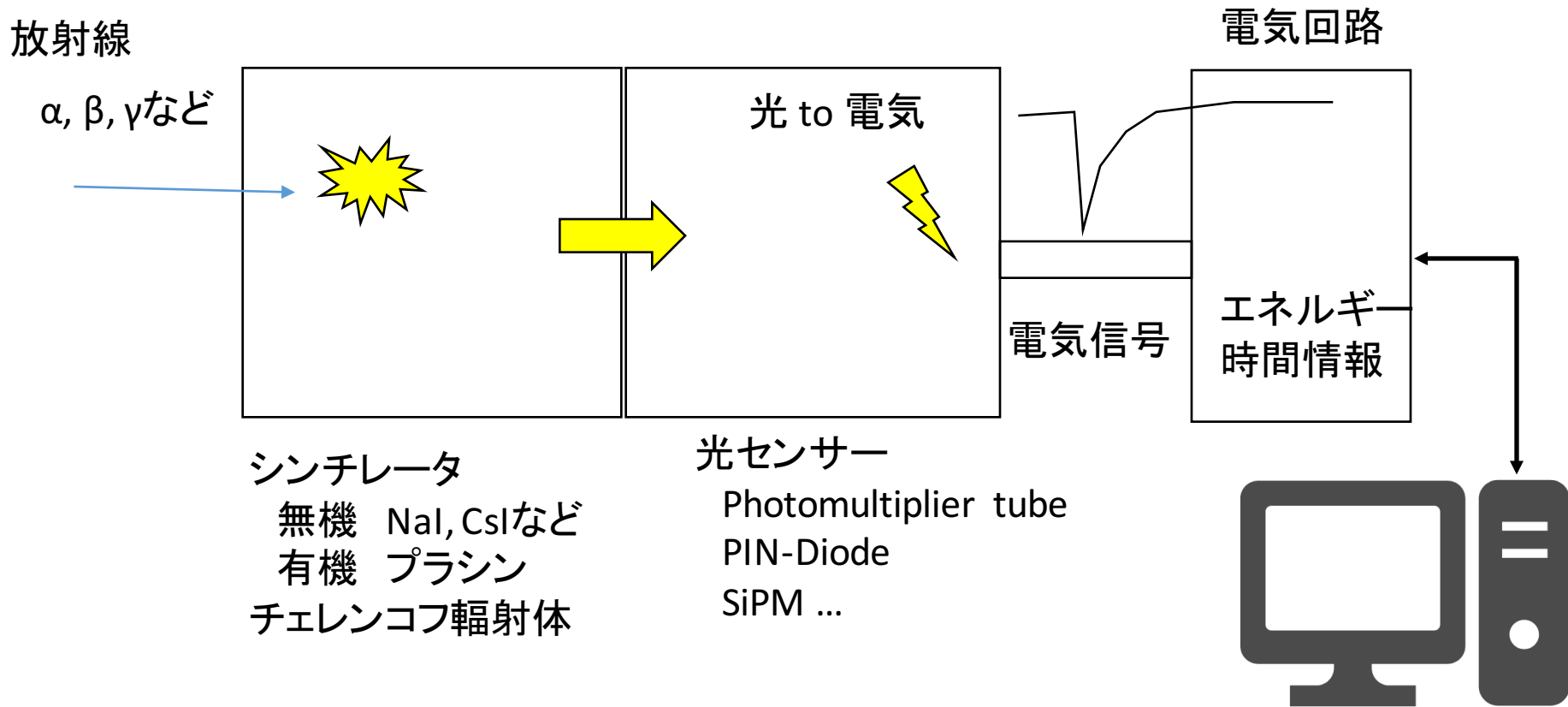
各パートの最後にまとめがあります。
質問どうぞ！

INDEX

1. 光検出器による放射線検出器の基礎
2. 素核実験検出器
3. 環境放射能測定

1. 光検出器による放射線検出器の基礎

イメージ



1. 光検出器による放射線検出器の基礎

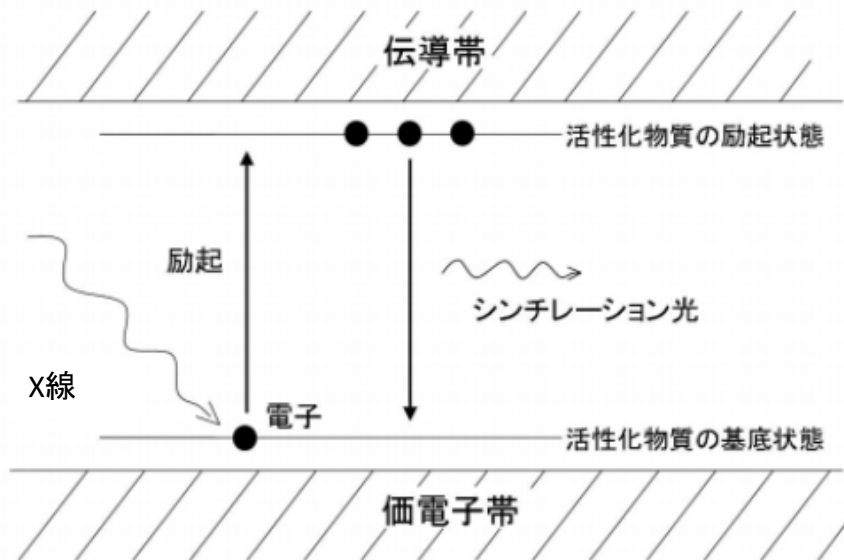
シンチレータとシンチレーション光



Eljen Technology Co. LTD.

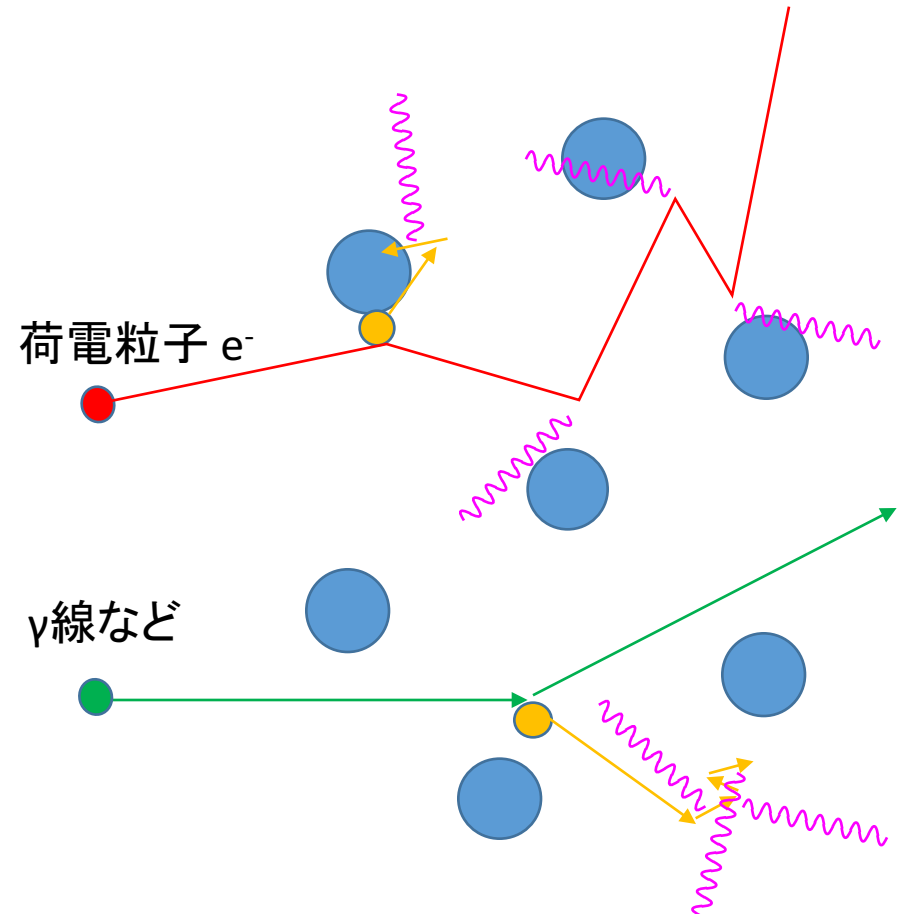
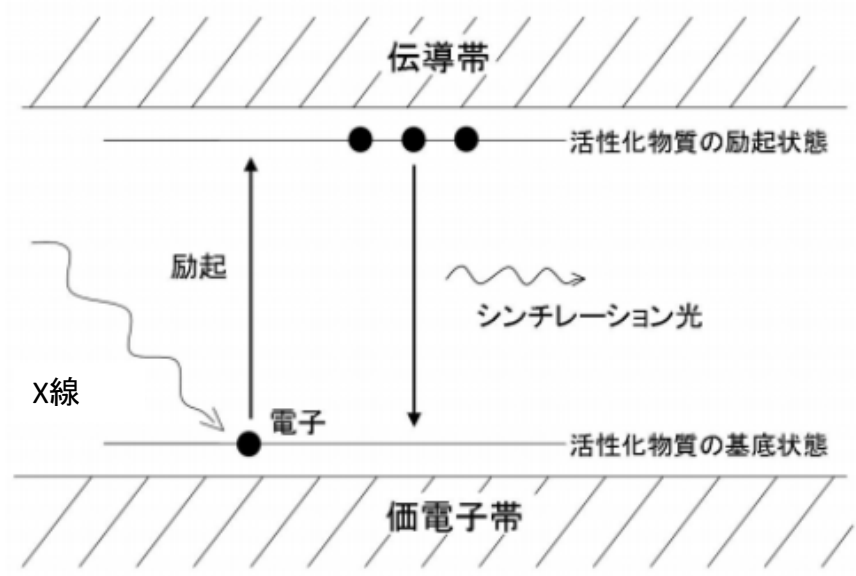
1. 光検出器による放射線検出器の基礎

シンチレータとシンチレーション光



1. 光検出器による放射線検出器の基礎

シンチレータとシンチレーション光



荷電粒子が落としたエネルギーに依存して光子が発生する

1. 光検出器による放射線検出器の基礎

シンチレータとシンチレーション光

有機シンチ(プラシン)

早い時間特性のため荷電粒子検出に向いている
加工が容易

無機シンチ

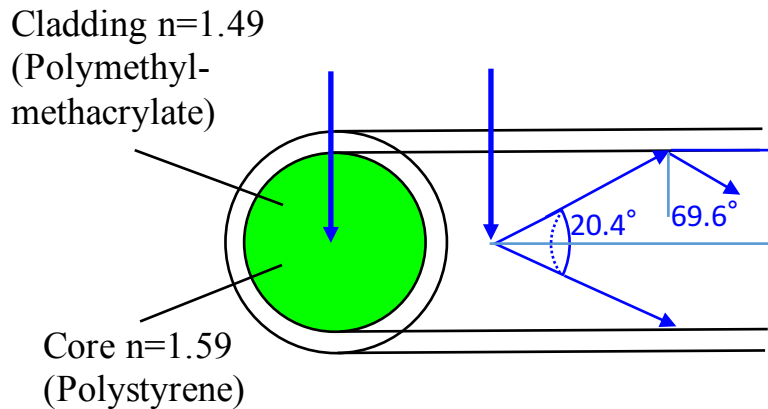
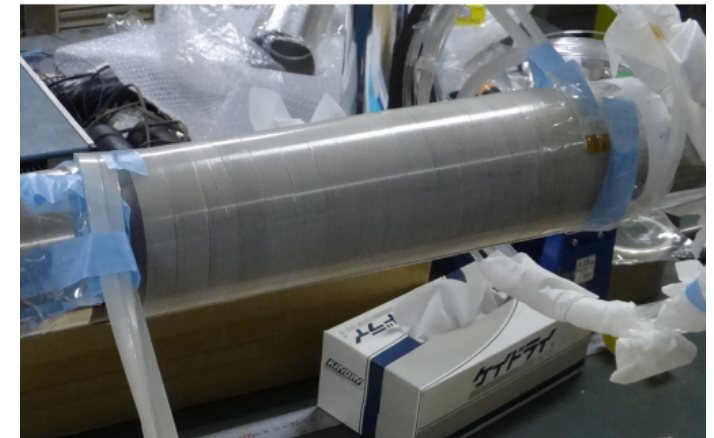
高密度なため γ 線検出などに向いている
NaI(Tl), CsI(Tl)など
TlやCeなどドーピングすることで減衰時間を短い特性にする

シンチレータ	密度 (g/cm ³)	発光波長 (nm)	蛍光減衰時間 (ns)	Light output (/MeV)	放射長* (cm)	備考
NaI(Tl)	3.67	415	230	39000	2.59	潮解性
CsI(Tl)	4.51	565	1000	33000	1.86	潮解性
GSO(Ce)	7.13	440	60	9000	1.38	
LaBr ₃ (Ce)	5.29	380	25	63000	2.1	潮解性

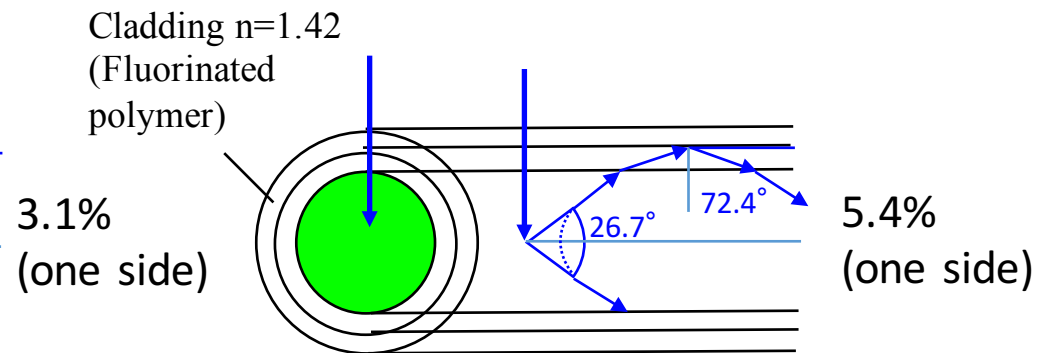
*511keV の γ 線が 1/e に減衰する距離

1. 光検出器による放射線検出器の基礎

シンチレーティング・ファイバー



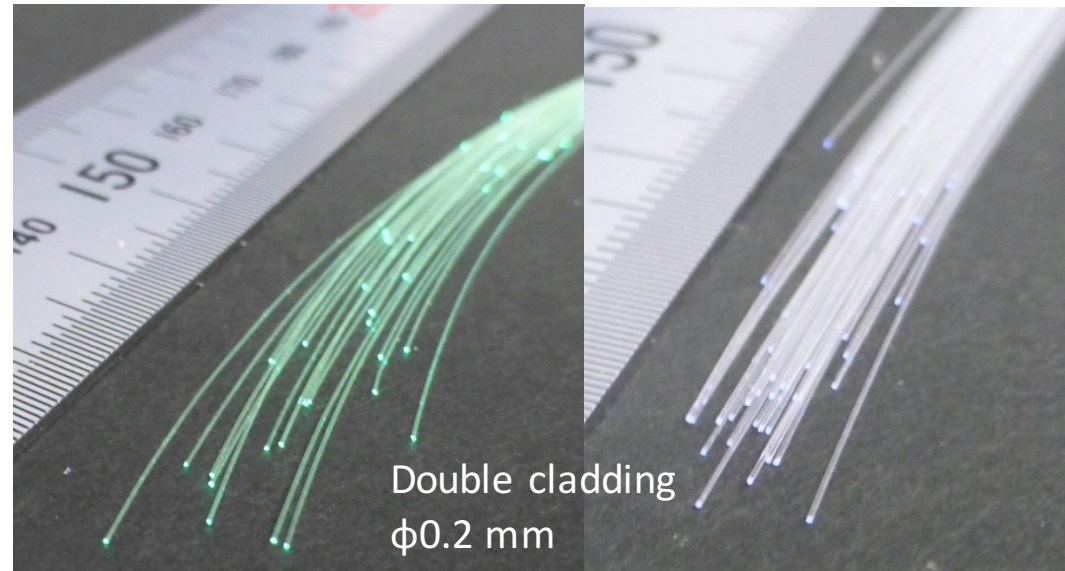
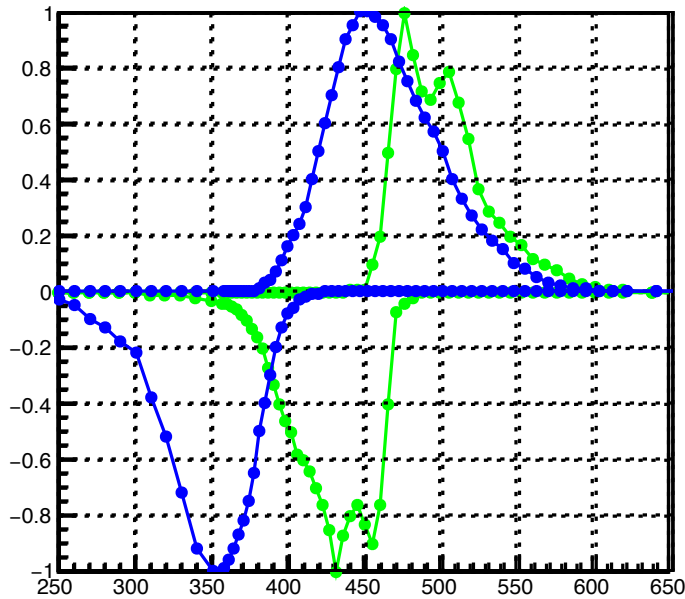
Single cladding



Double cladding

1. 光検出器による放射線検出器の基礎

波長変換ファイバー



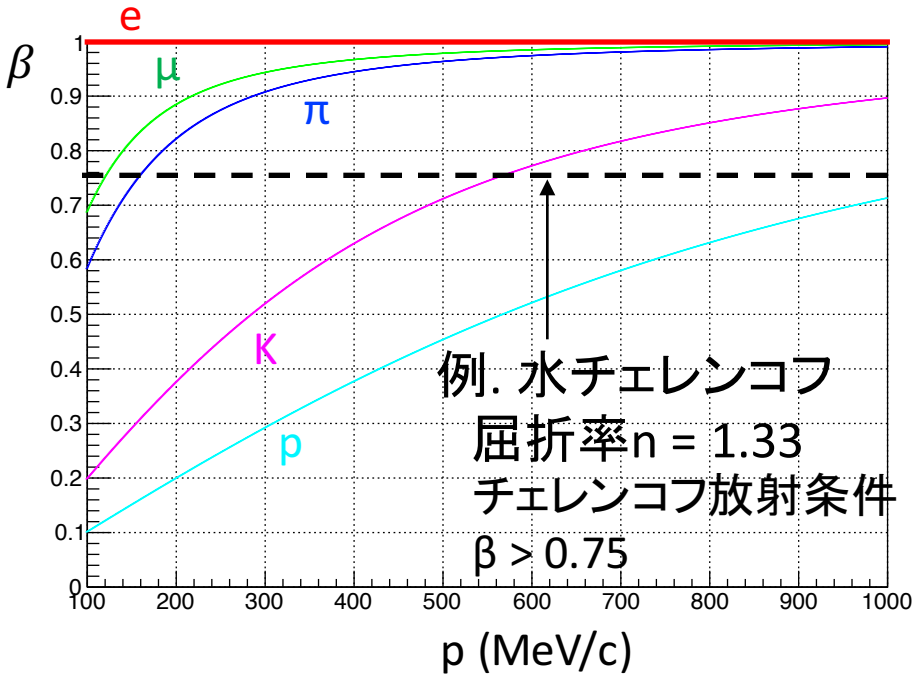
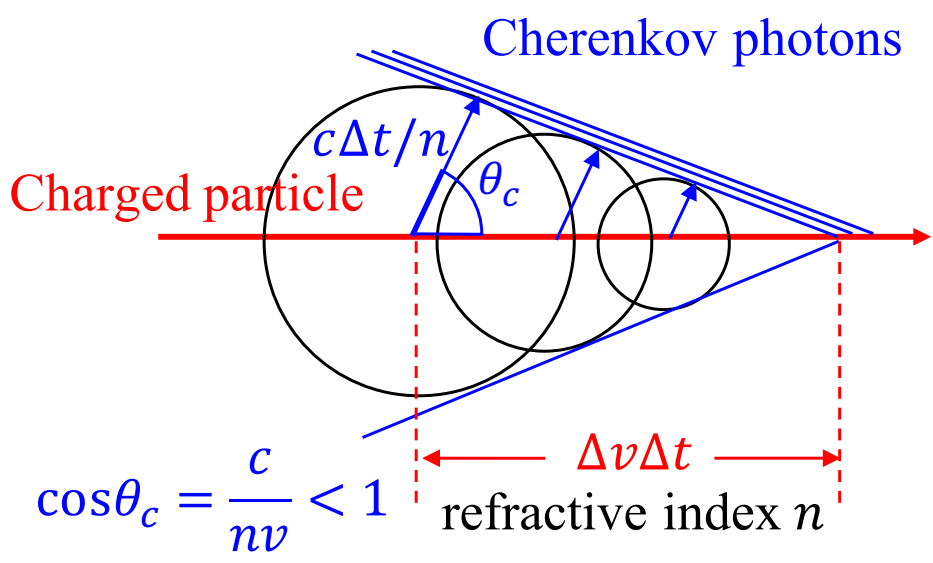
Kuraray Y-11(300)MJ

B-3(300)MJ



1. 光検出器による放射線検出器の基礎

チェレンコフ放射



相対論で計算

$$\beta = v/c = p/E$$

$$= p/\sqrt{m^2 + p^2}$$

1. 光検出器による放射線検出器の基礎

光検出器

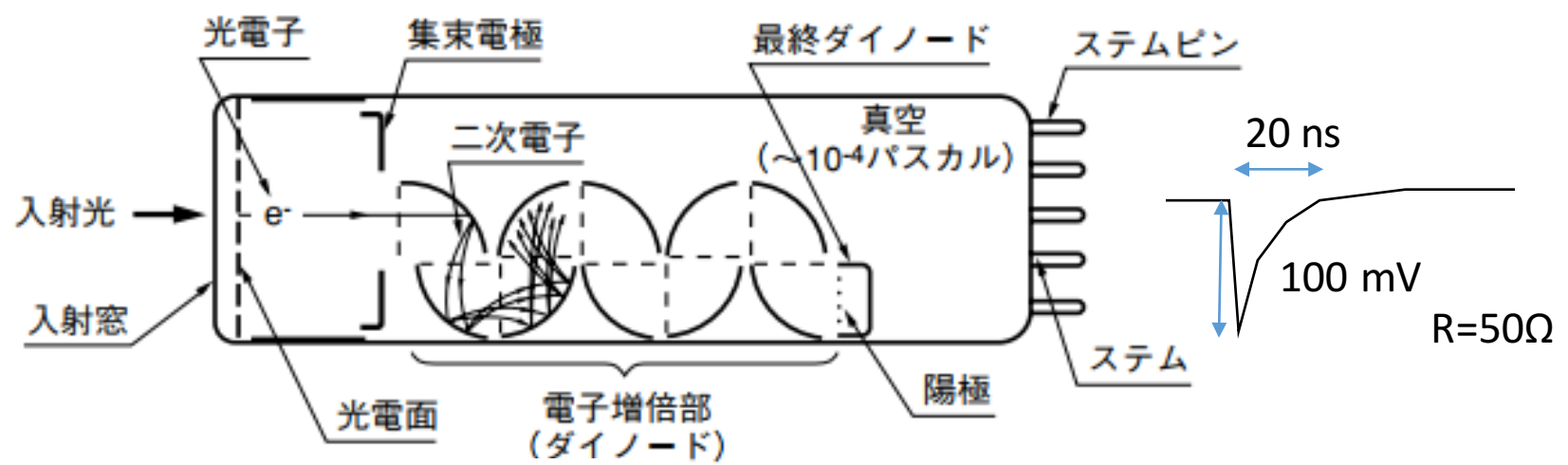
光電子増倍管(フォトマル)
Photomultiplier tube (PMT)



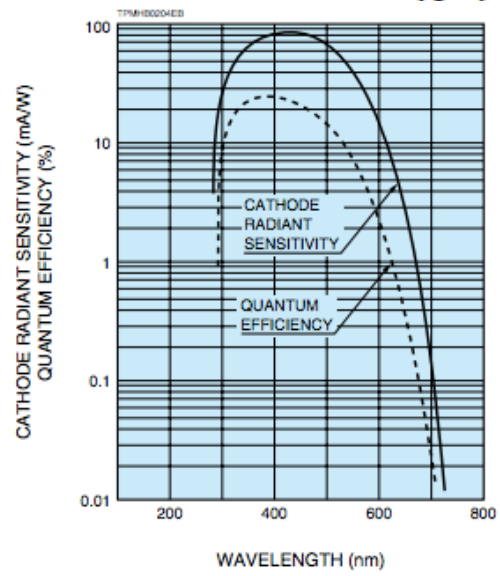
by Hamamatsu K.K.

1. 光検出器による放射線検出器の基礎

PMTの原理



光電面
バイアルカリ
マルチアルカリ
など



ダイノード
- ラインフォーカス型
- メッシュ型
- メタルチャンネル型
など

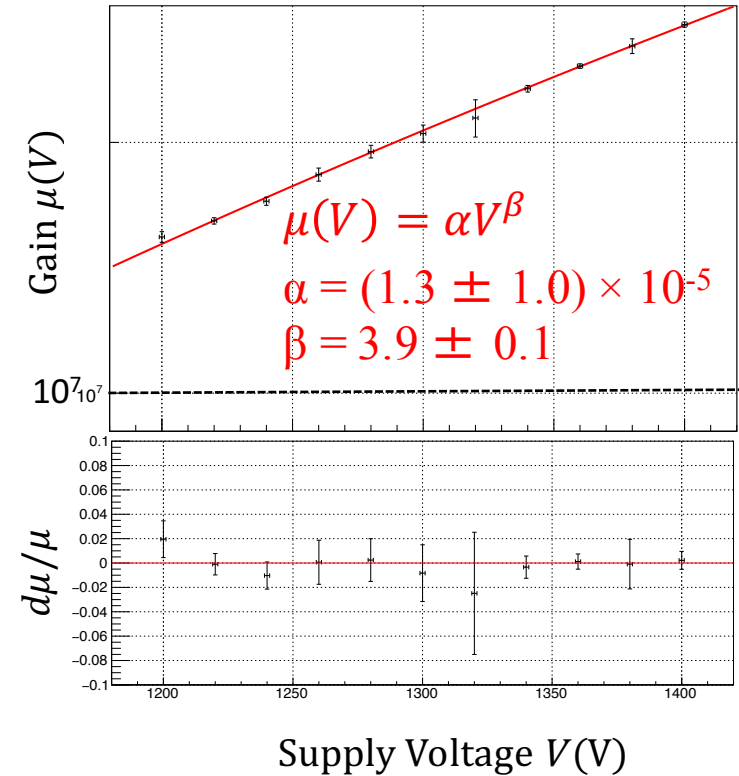
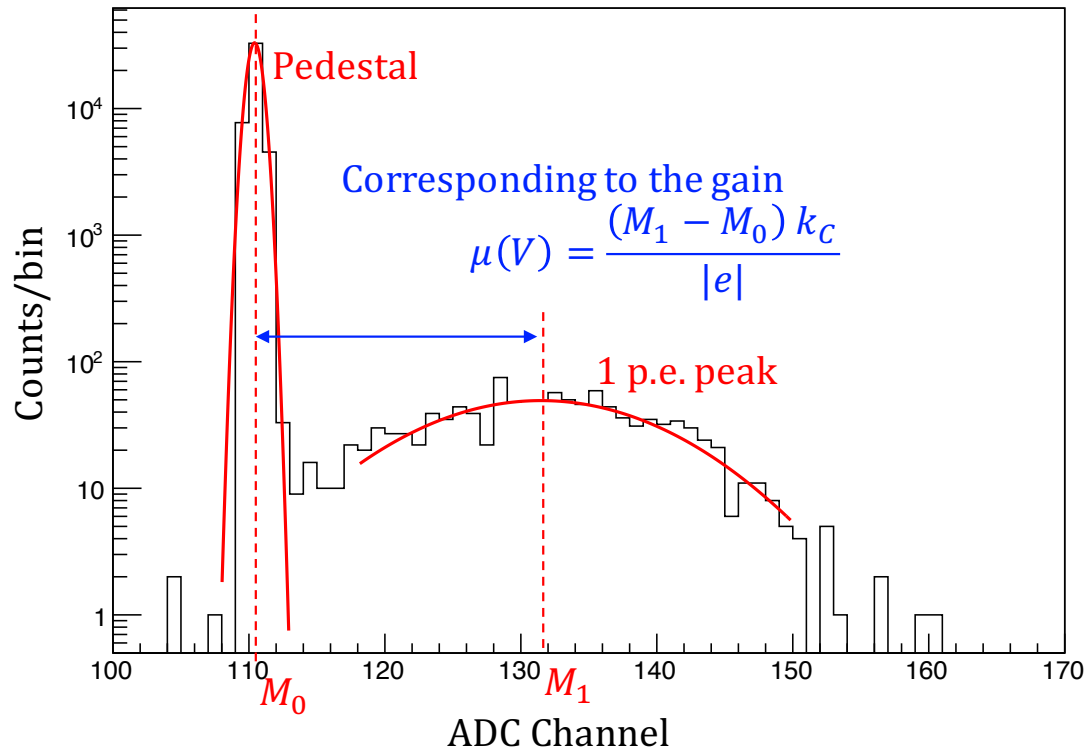
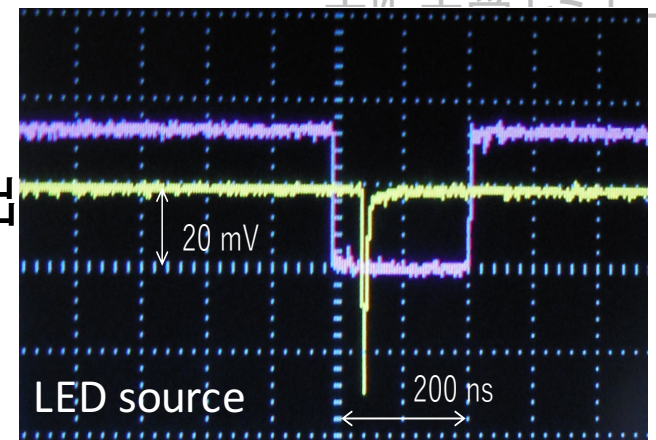
素電荷 $1.6 \times 10^{-19} \text{ C}$

観測する電荷量
 $Q = I t = V t / R$
 $\sim 2 \times 10^{-12} \text{ C}$

増幅率 10^7 くらい要る

1. 光検出器による放射線検出

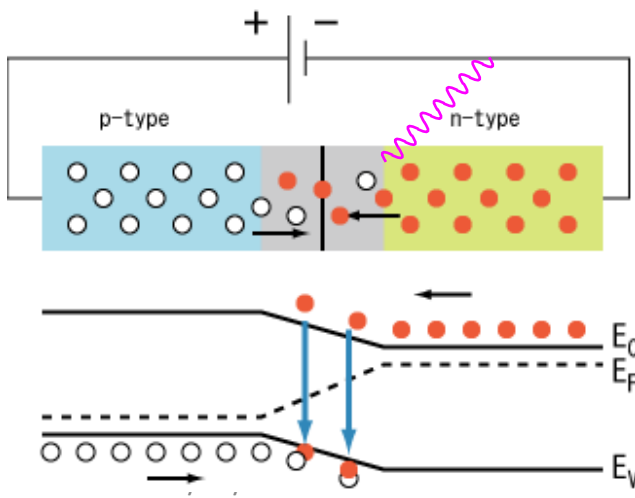
PMTの原理



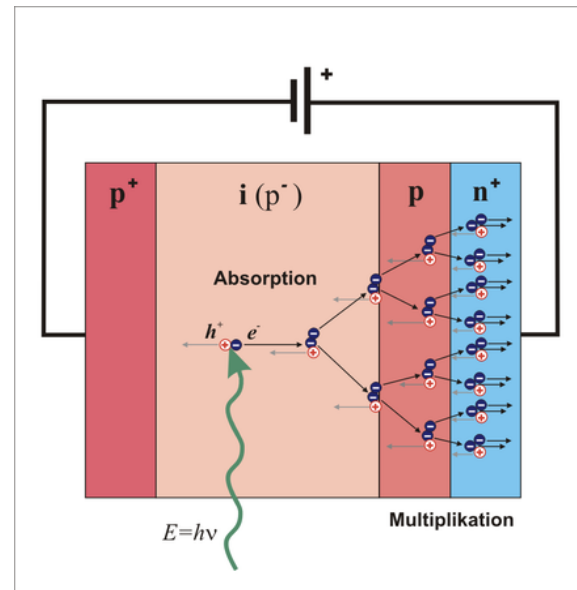
1. 光検出器による放射線検出器の基礎

半導体光検出器

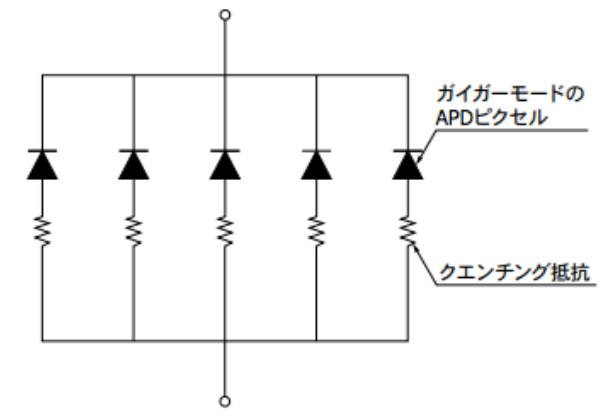
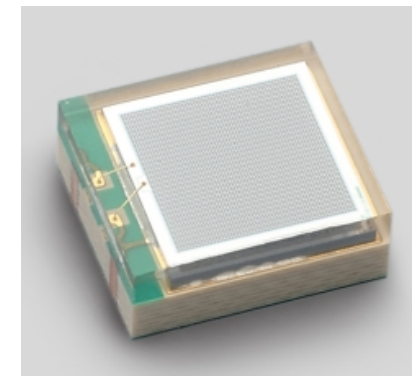
PIN-Photodiode



Avalanche photodiode



SiPM
Geiger mode APD
MPPC



1. 光検出器による放射線検出器の基礎

一旦まとめ

- 光を用いた放射線測定技術は発光体、光センサーの組み合わせ.
- 有機シンチレータは加工が容易でファイバー形状などある.
- シンチレーション光は荷電粒子が落としたエネルギーに依存、等方的に放射
- チェレンコフ放射は荷電粒子の速度に依存、粒子進行方向に発光特性
- 光検出器は真空管と半導体がよく使われてる、用途に応じて使い分ける.
- 発光メカニズムやシンチレータ材質、集光システム、光センサーの組み合わせで実験のアイデアは広がる.

INDEX

1. 光検出器による放射線検出器の基礎
2. 素核実験検出器
3. 環境放射能測定

2. 素核実験検出器

素粒子物理と標準模型

素粒子: 物質を構成する最小単位

標準模型: 素粒子の振舞いを記述する理論

体系

- ▶ **クォーク・レプトン**: 物質を構成
- ▶ **ゲージ粒子**: 力を媒介
- ▶ **ヒッグス粒子**: 質量起源
- ▶ 多くの実験結果を精度よく説明

問題点: ダークマター、ダークエネルギー、レプトンフレーバー破れなど説明できない

⇒ 標準模型を超える新物理があるはず

>> 標準模型の精密検証、新物理探索

ニュートリノmass, LFV, LUV, エキゾチックハドロン...



2. 素核実験検出器

ハドロン実験

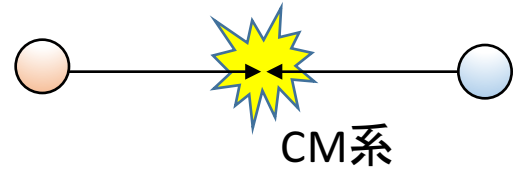
ハドロンとは？

強い相互作用で結合した複合粒子

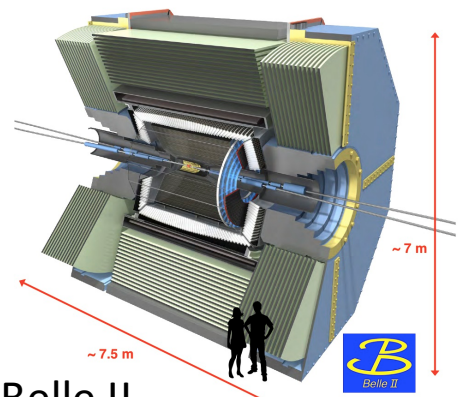
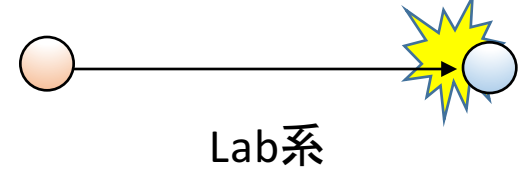
メソン: クォーク2つ $q\bar{q} \dots \pi, \rho, K, \phi, D, J/\Psi, B$

バリオン: クォーク3つ $qqq \dots p, n, \Delta, \Sigma, \Lambda$

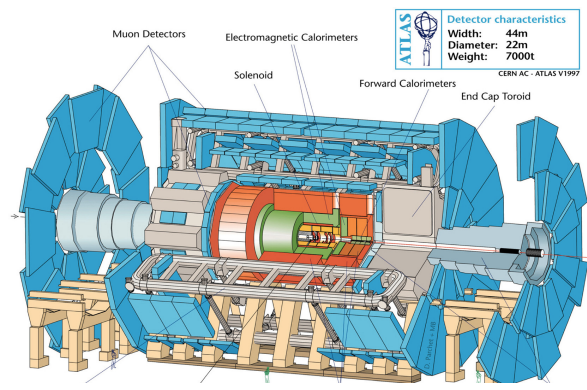
コライダー(collider)実験



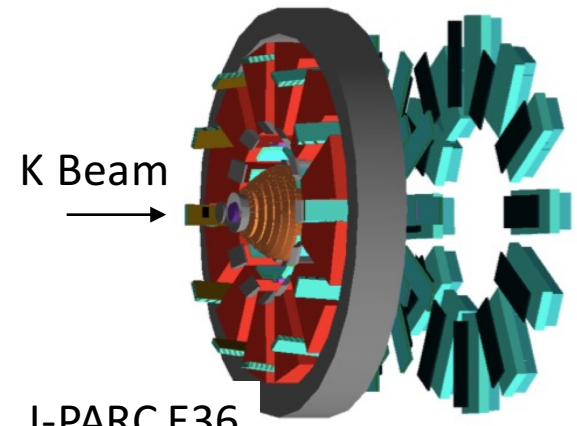
標的(fixed target)実験



Belle II $e^+(4 \text{ GeV}) - e^-(7 \text{ GeV})$

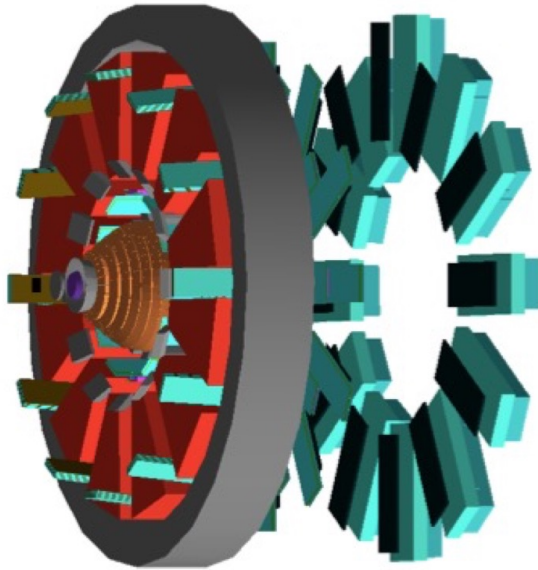


ATLAS $p(7 \text{ TeV}) - p(7 \text{ TeV})$



J-PARC E36

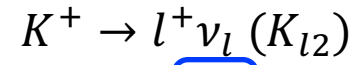
2. 素核実験検出器



J-PARC E36実験

静止 K^+ を用いた $\Gamma(K^+ \rightarrow e^+ \nu_e) / \Gamma(K^+ \rightarrow \mu^+ \nu_\mu)$ の精密測定実験

レプトン普遍性: 「弱い相互作用結合定数はレプトン世代に依らず同じ」 $g_e = g_\mu$?



$$\Gamma(K_{l2}) = g_l^2 (G^2/8\pi) f_K^2 m_K m_l^2 \{1 - (m_l^2/m_K^2)\}^2$$

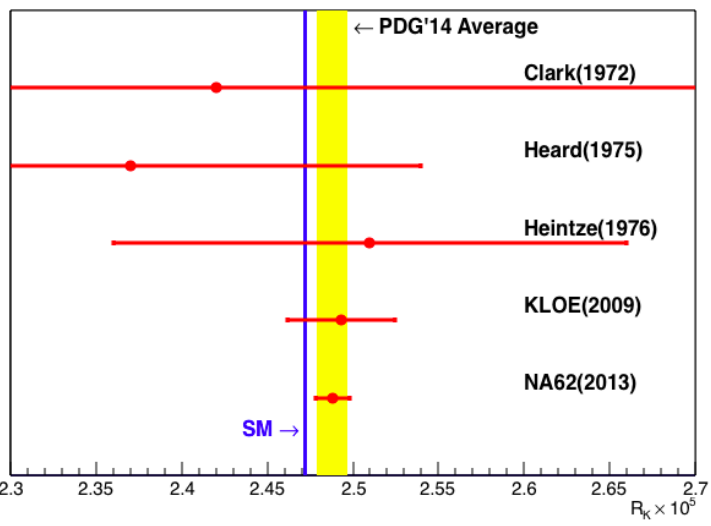
$$R_K^{SM} = \frac{\Gamma(K^+ \rightarrow e^+ \nu_e)}{\Gamma(K^+ \rightarrow \mu^+ \nu_\mu)}$$

$$= \frac{m_e^2}{m_\mu^2} \left(\frac{m_K^2 - m_e^2}{m_K^2 - m_\mu^2} \right)^2 (1 + \delta_r)$$

radiative correction

helicity suppression

$$= (2.477 \pm 0.001) \times 10^{-5}$$



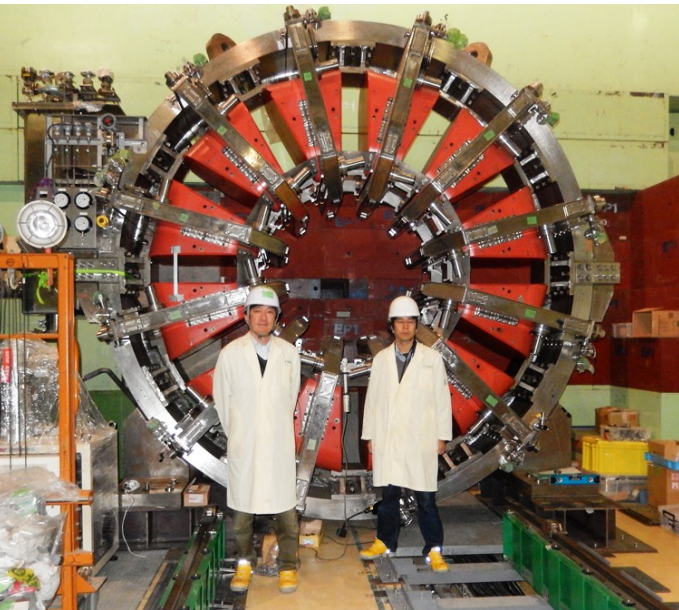
$$m_e \sim 0.511 \text{ MeV}/c^2$$

$$m_\mu \sim 105.6 \text{ MeV}/c^2$$

$$m_K \sim 493.7 \text{ MeV}/c^2$$

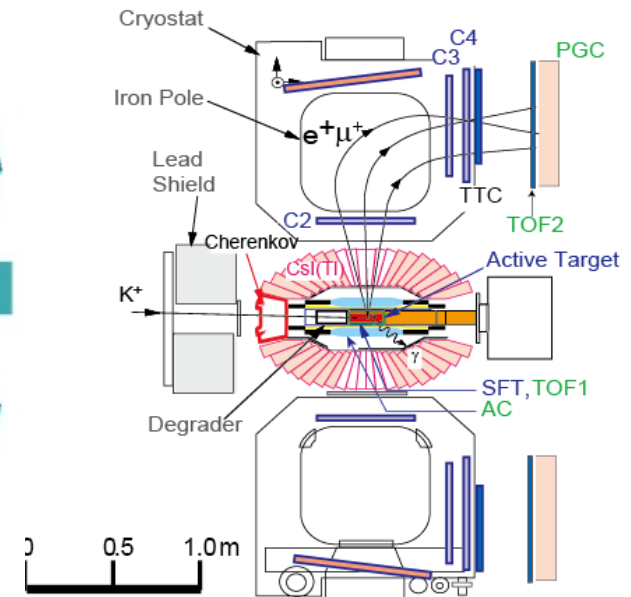
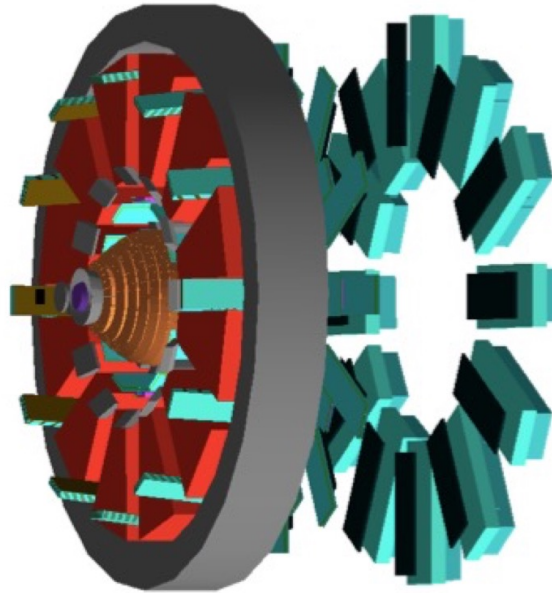
2. 素核実験検出器

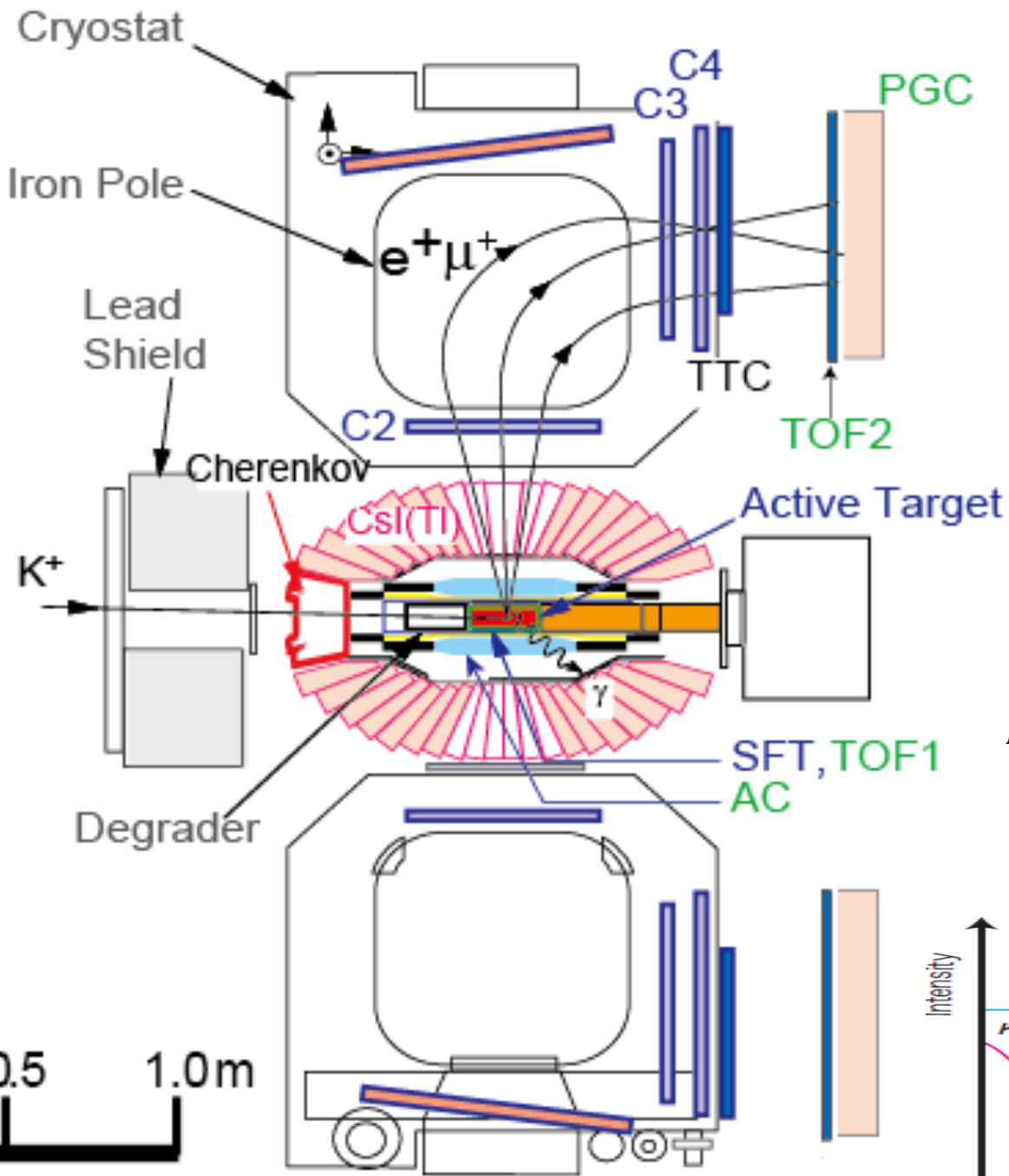
J-PARC E36検出器



大阪大 清水俊先生(左)

KEK 五十嵐洋一先生(右)



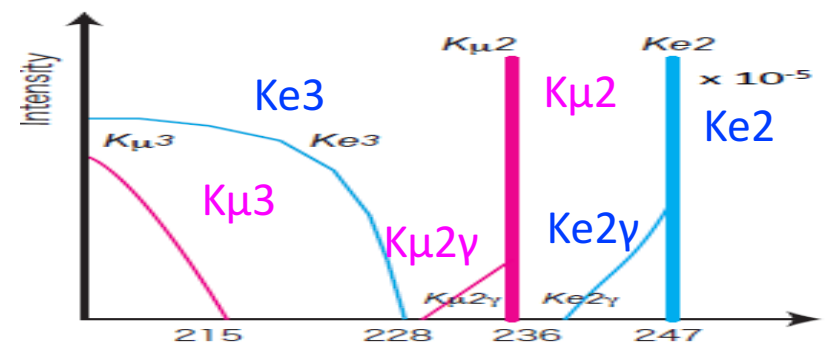


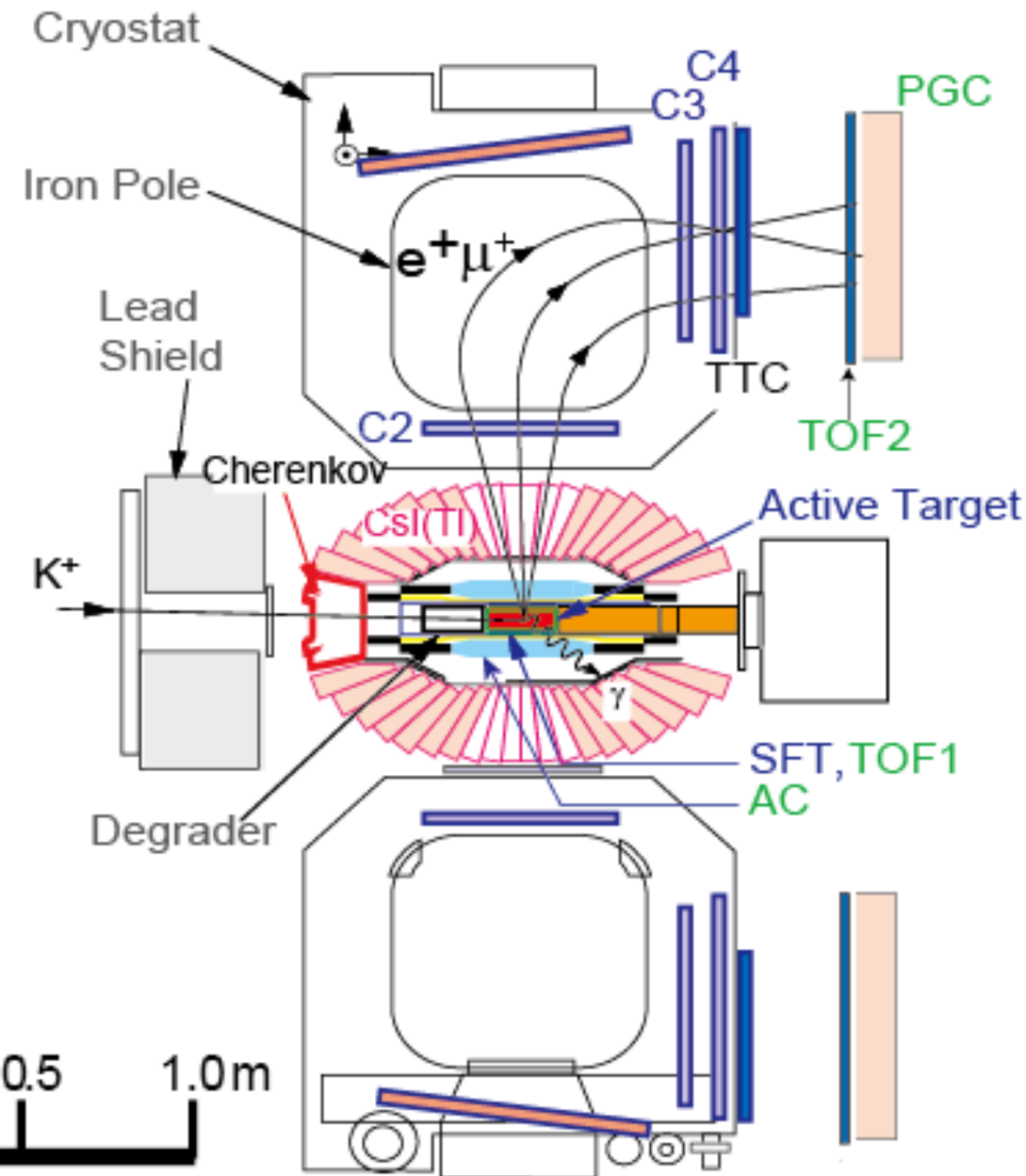
$m_e \sim 0.511 \text{ MeV}/c^2$
 $m_\mu \sim 105.6 \text{ MeV}/c^2$
 $m_K \sim 493.7 \text{ MeV}/c^2$

Decay channel	Branching ratio
$K^+ \rightarrow e^+ \nu_e (K_{e2})$	1.58×10^{-5}
$K^+ \rightarrow \mu^+ \nu_\mu (K_{\mu2})$	63.55%
$K^+ \rightarrow e^+ \pi^0 \nu_e (K_{e3})$	5.07%
$K^+ \rightarrow \mu^+ \pi^0 \nu_\mu (K_{\mu3})$	3.35%
$K^+ \rightarrow \pi^+ \pi^0 (K_{\pi2})$	20.66%
$K^+ \rightarrow \pi^+ \pi^0 \pi^0$	1.76%
$K^+ \rightarrow \pi^+ \pi^+ \pi^-$	5.59%

$K^+ \rightarrow l^+ \nu_l (K_{l2})$

e^+ from K_{e2} $p_e = 246.8 \text{ MeV}/c$
 μ^+ from $K_{\mu2}$ $p_\mu = 235.5 \text{ MeV}/c$





静止 K^+ 法

- K1.1BR beamline
- Beam Cherenkov
- K^+ stopping target

トラッキング

- MWPC (C2, C3, C4)
- Spiral Fiber Tracker (SFT)
- Thin trigger counter (TTC)

粒子識別

- TOF (TOF1, TOF2)
- Aerogel Cherenkov (AC)
- Pb glass counter (PGC)

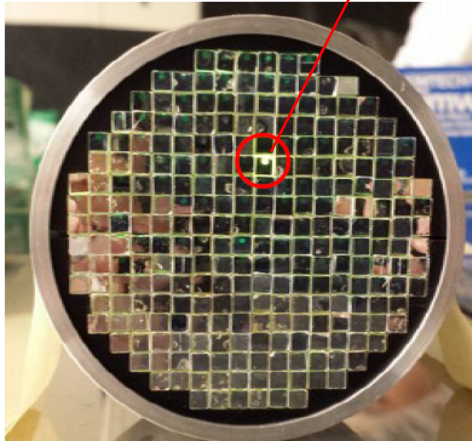
ガンマ線

- CsI(Tl)
- Gap veto (GV)

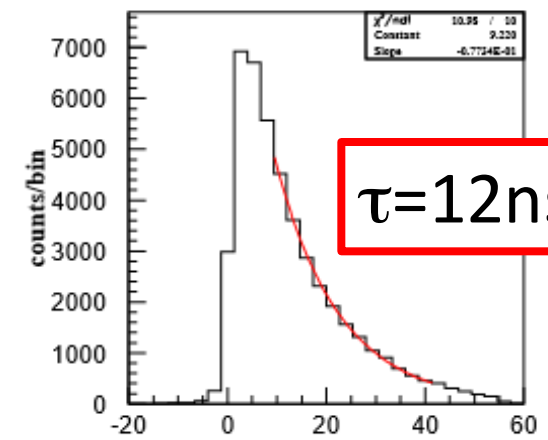
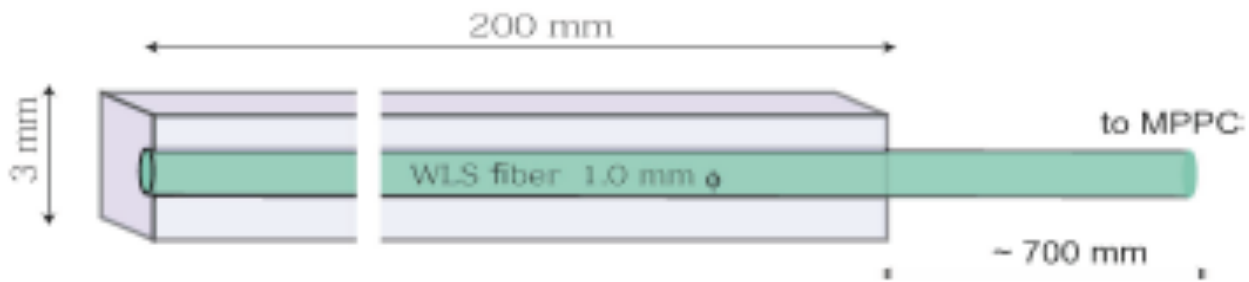
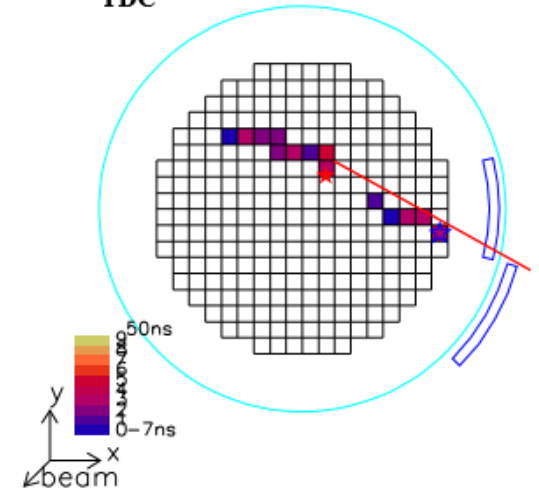
2. 素核実験検出器

Active Target

プラスチックシンチレータ

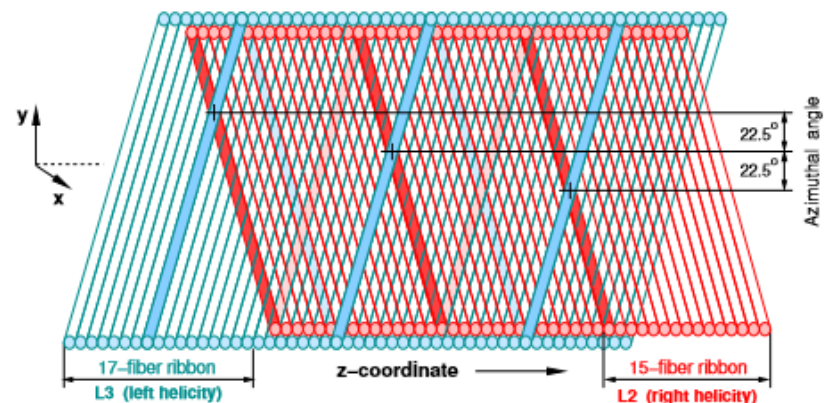
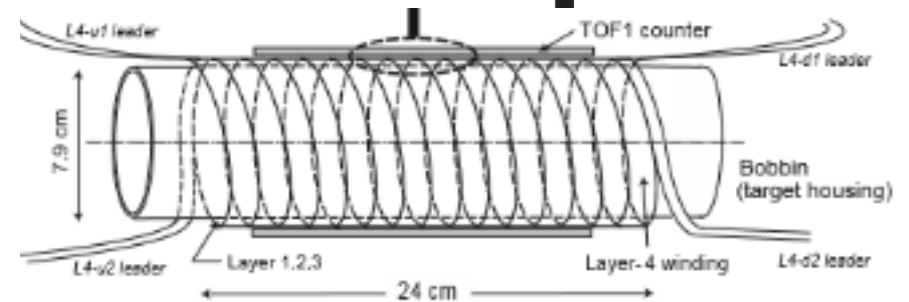
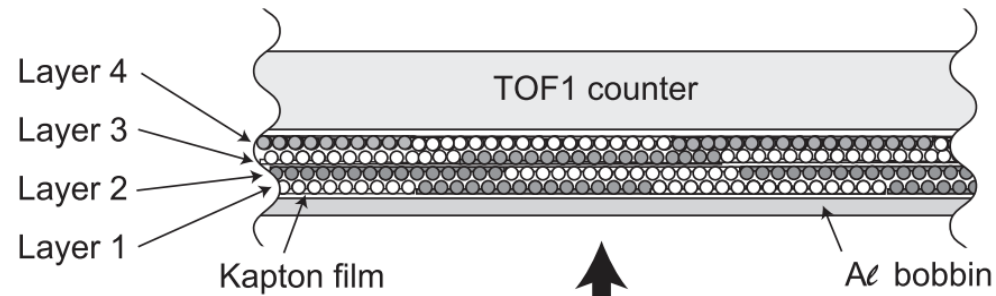
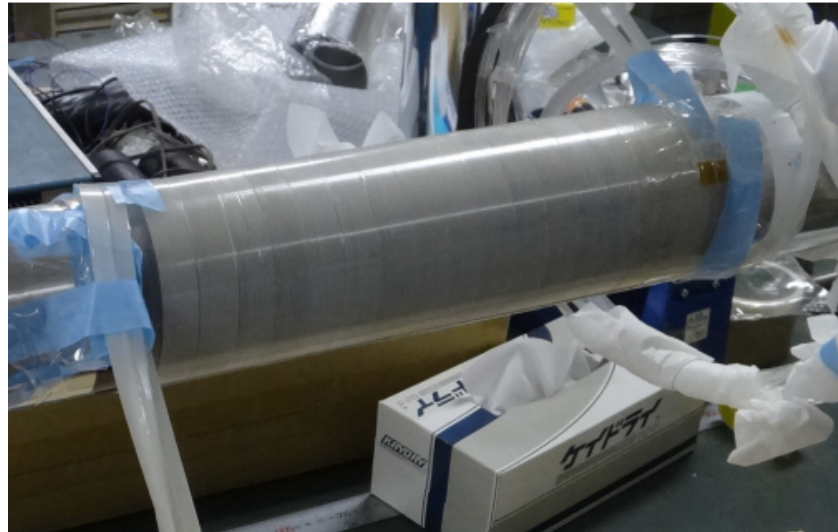


TDC



2. 素核実験検出器

スパイラル・ファイバー・トラッカー

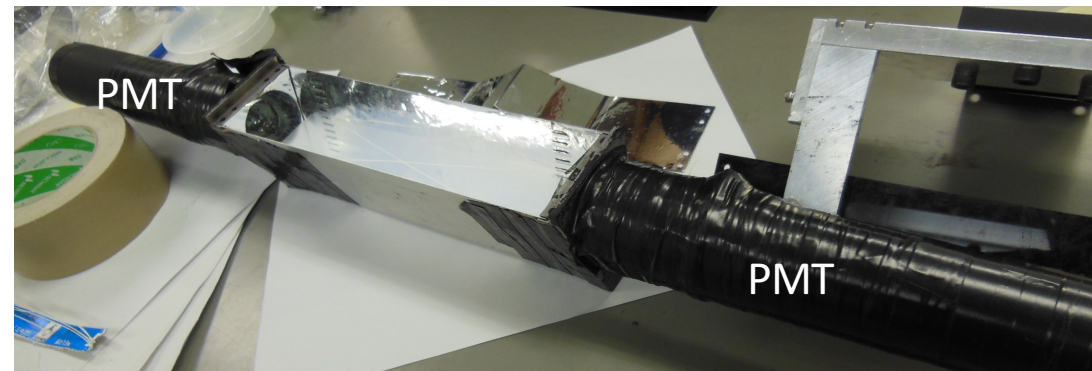
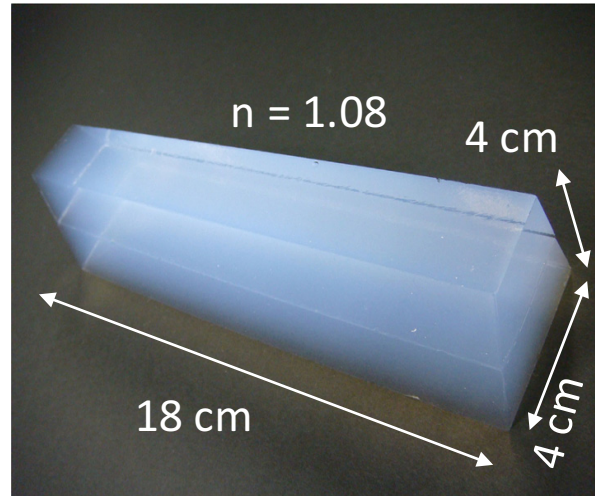
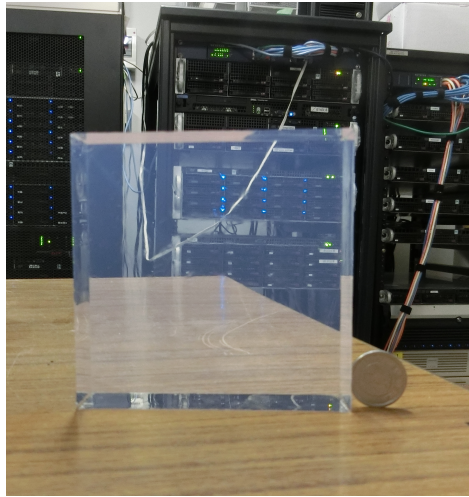


- 右巻helicity(2層)左巻きhelicity(2層)の4層構造。
- 右巻と左巻きリボンは幅が異なる。
- 交点位置がターン毎に22.5度ずれていく。
- Target解析と合わせ、z位置をユニークに決定

2. 素核実験検出器

エアロゲル・チェレンコフ検出器

シリカエアロゲル

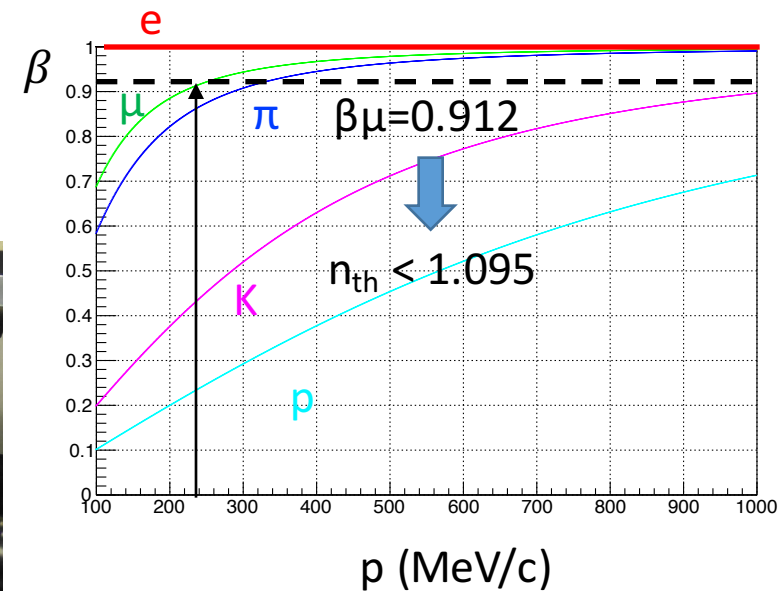


$$K^+ \rightarrow l^+ \nu_l (K_{l2})$$

$$e^+ \text{ from } K_{e2} \quad p_e = 246.8 \text{ MeV}/c$$

$$\mu^+ \text{ from } K_{\mu 2} \quad p_\mu = 235.5 \text{ MeV}/c$$

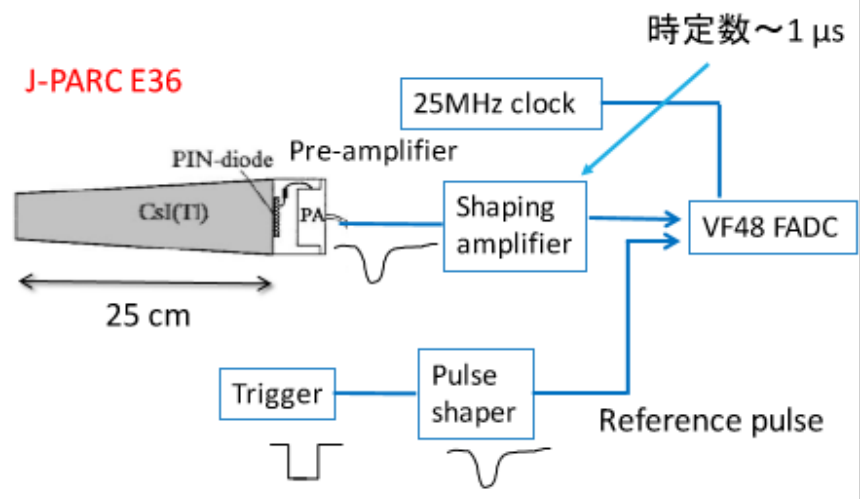
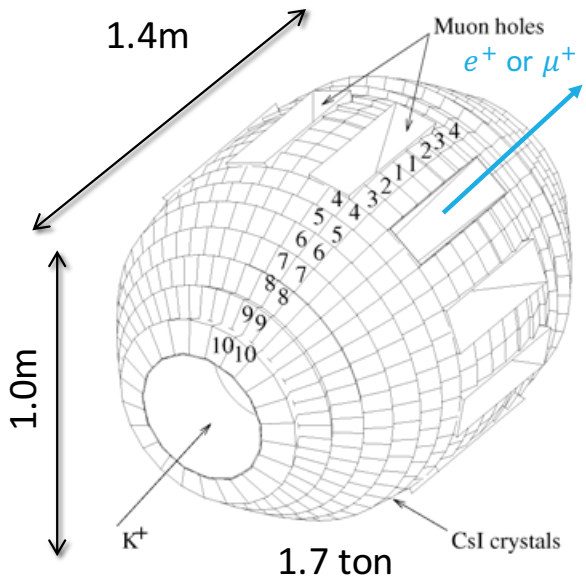
eで鳴って、μでならない屈折率は？



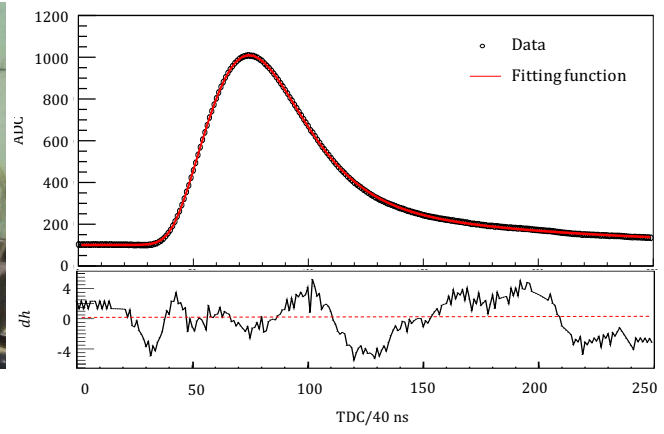
2. 素核実験検出器

CsI(Tl)カロリメータ

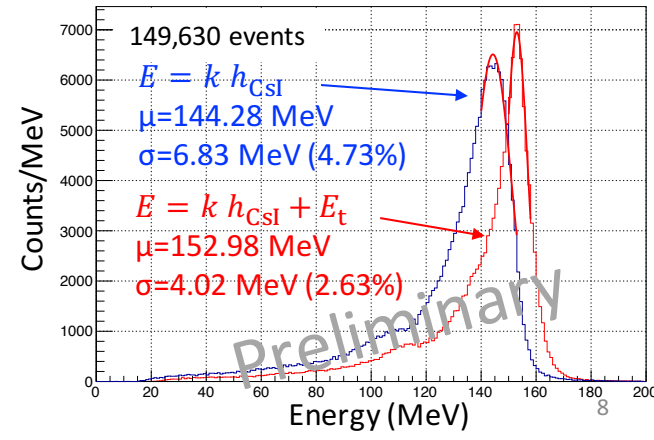
678 個 CsI(Tl) 結晶



波形解析



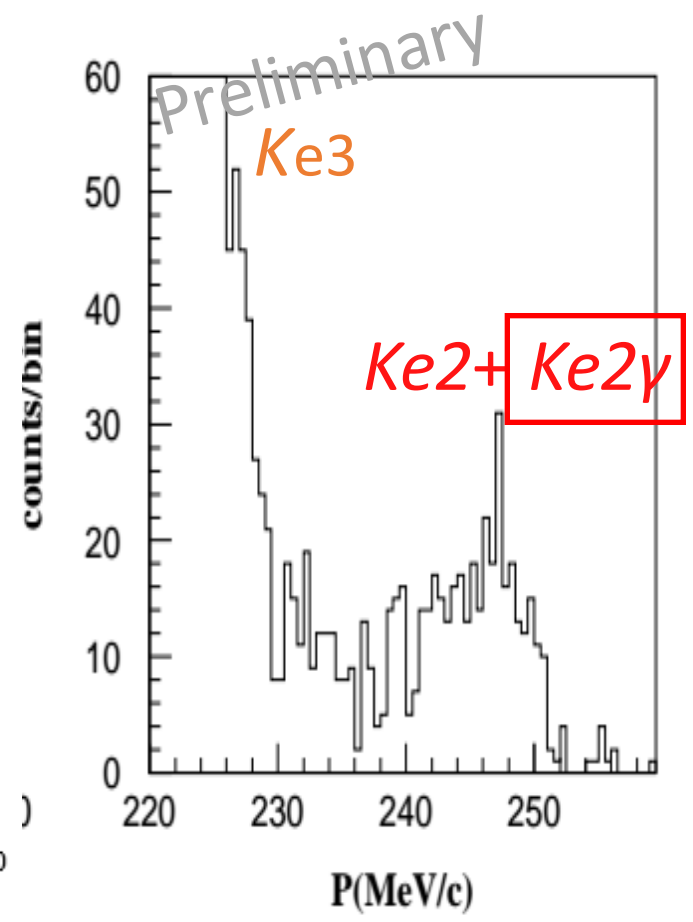
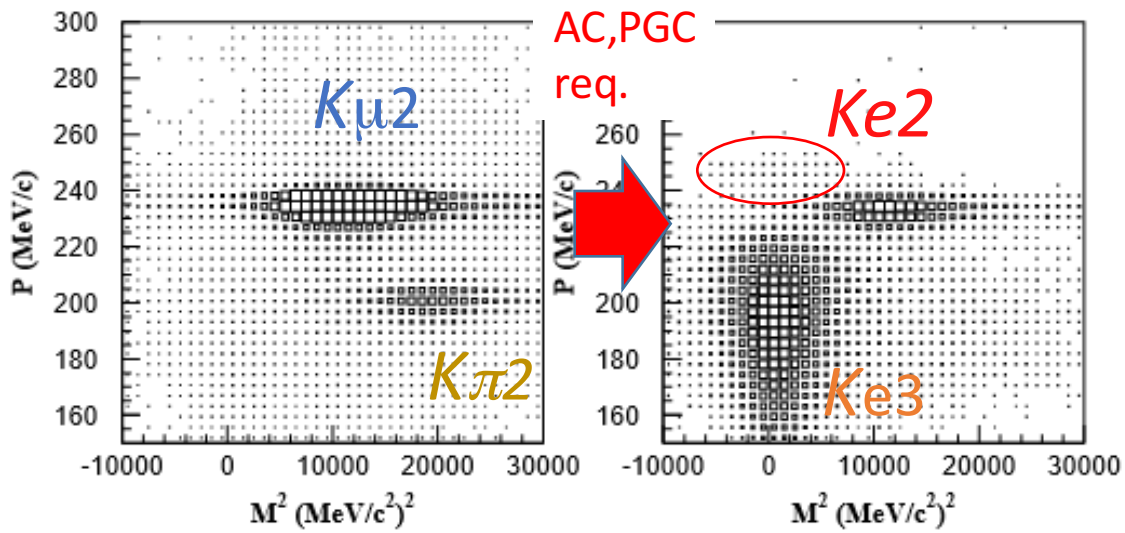
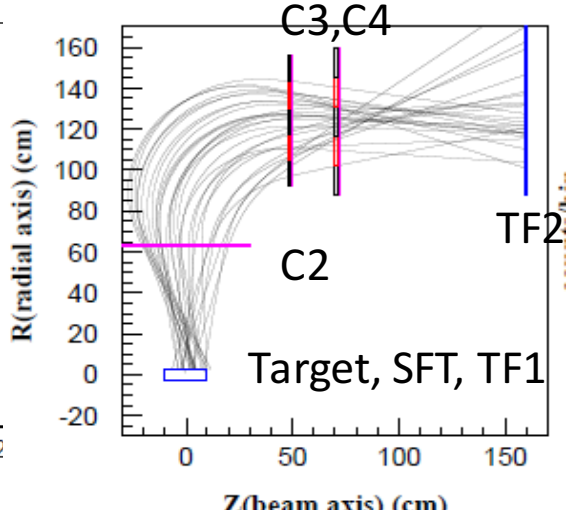
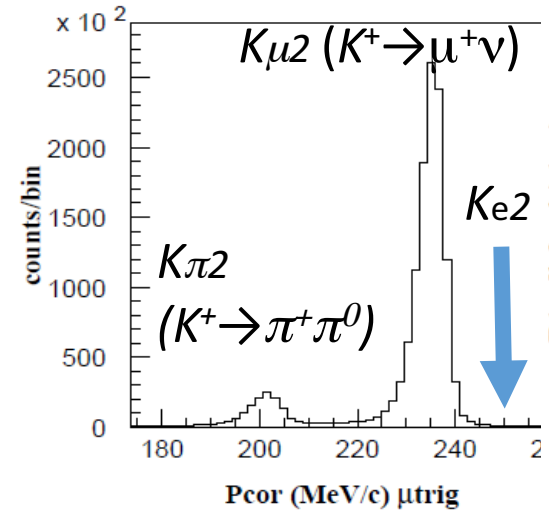
エネルギー較正



2017/10/27

2. 素核実験検出器

データ解析

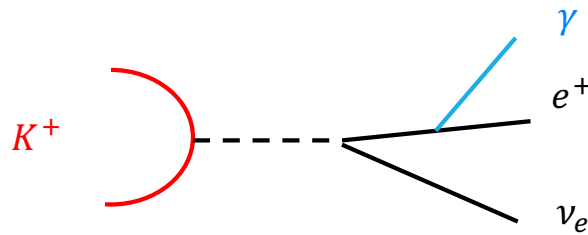


2. 素核実験検出器

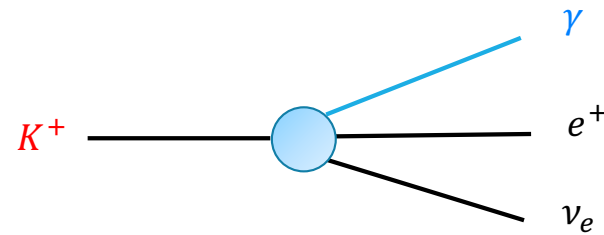
データ解析

$$R_K^{SM} = \frac{\Gamma(K_{e2}) + \Gamma(K_{e2\gamma}(IB))}{\Gamma(K_{\mu 2}) + \Gamma(K_{\mu 2\gamma}(IB))}$$

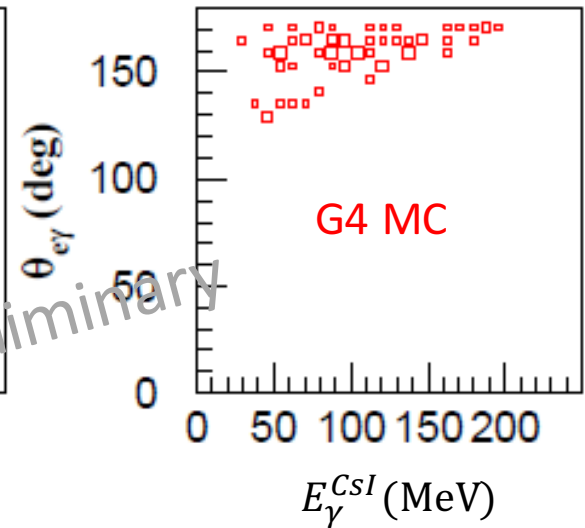
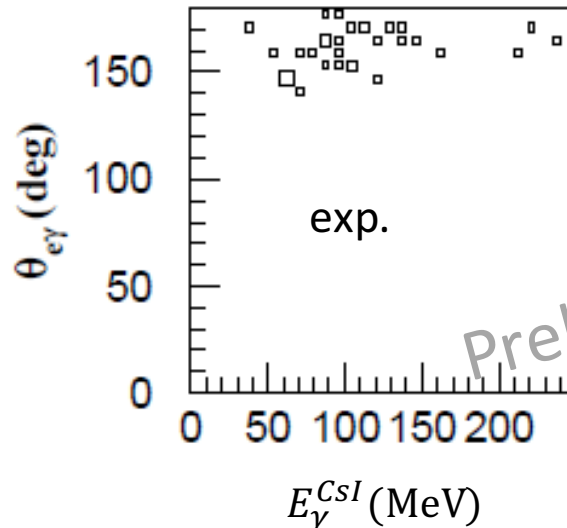
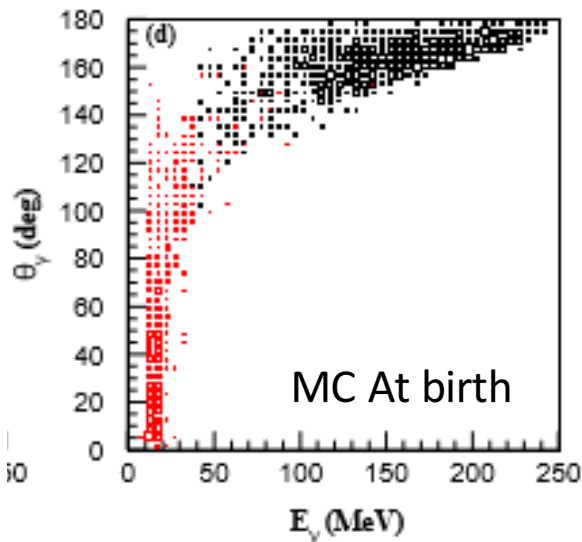
Background: $K_{e2\gamma}$ (SD)
 $K_{e2\gamma}: K^+ \rightarrow e^+ \nu_e \gamma$



Internal Bremsstrahlung (IB)



Structure Dependent (SD)



Preliminary

2. 素核実験検出器

一旦まとめ

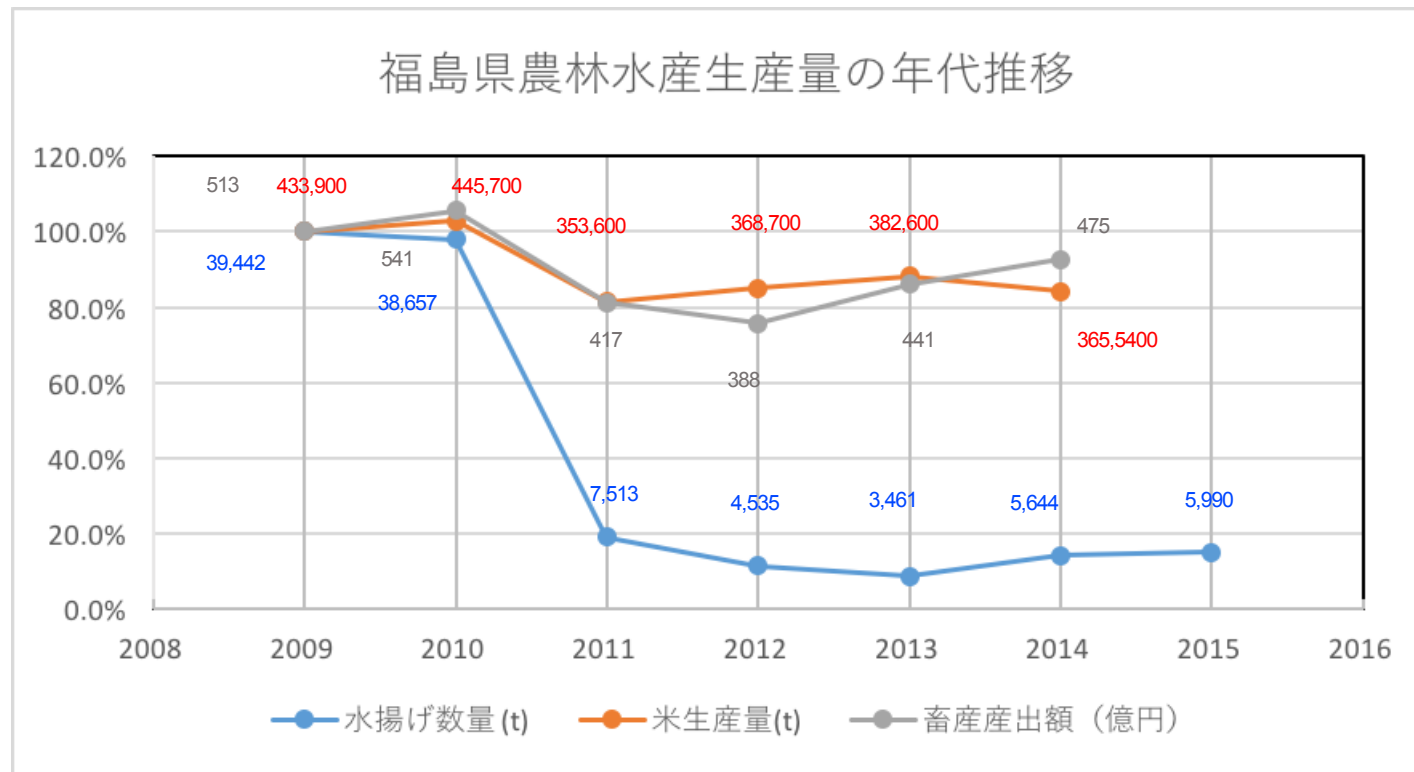
- J-PARC E36実験はほぼ光検出器を用いたFixed Target実験
- 光検出器は荷電粒子の識別、 γ 線カロリメータ、K静止位置の役割に応用された。
- これらの検出器を組み合わせ、レプトン普遍性破れ探索の研究を行っている
- 現在、解析は順調に進んでいる
 - Ke2ピークを観測
 - Ke2 γ (SD)事象を観測、シミュレーションと一致
- 今後は解析データ統計を増やし、Ke2 γ 由来雑音抑制を行なっていく

INDEX

1. 光検出器による放射線検出器の基礎
2. 素核実験検出器
3. 環境放射能測定

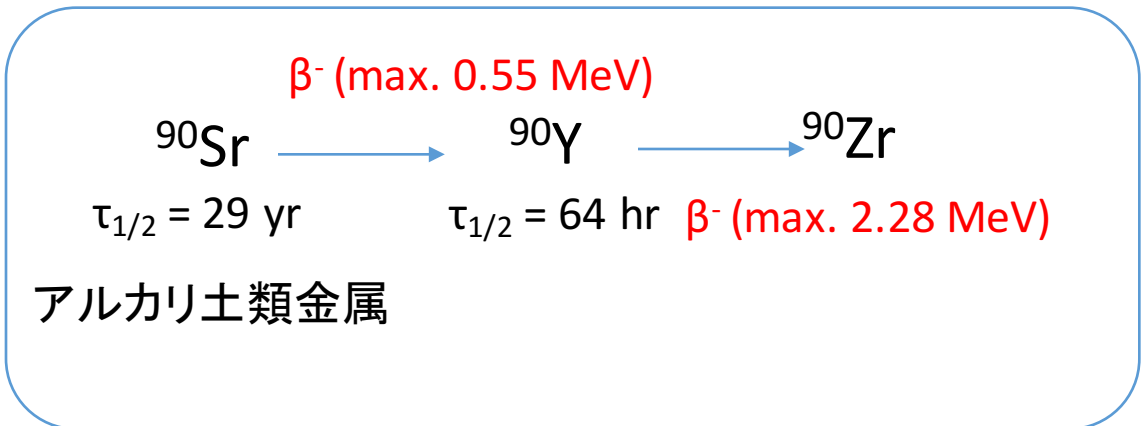
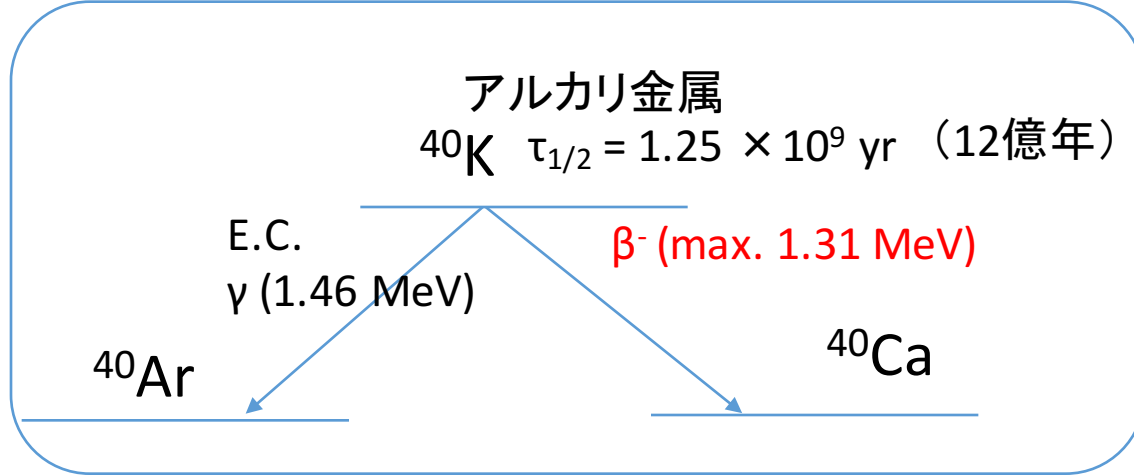
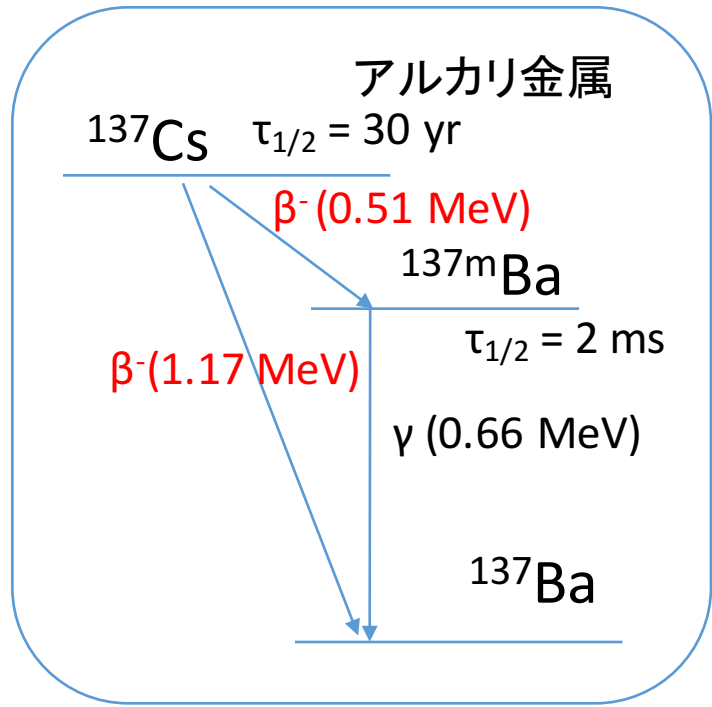
3. 環境放射能測定

福島原発事故の影響



3. 環境放射能測定

放射線核種のいろいろ



3. 環境放射能測定

ストロンチウム90放射能濃度測定

化学抽出法

- JIS規格
- 放射平衡を待つため数週間から1ヶ月測定にかかる
- 試料全て灰にするため生鮮食品の汚染検査は難しい

エンドポイント法

- 磁場、カロリメータを用いたエネルギー spektrometer
- 環境放射能によってエンドポイント決定が困難

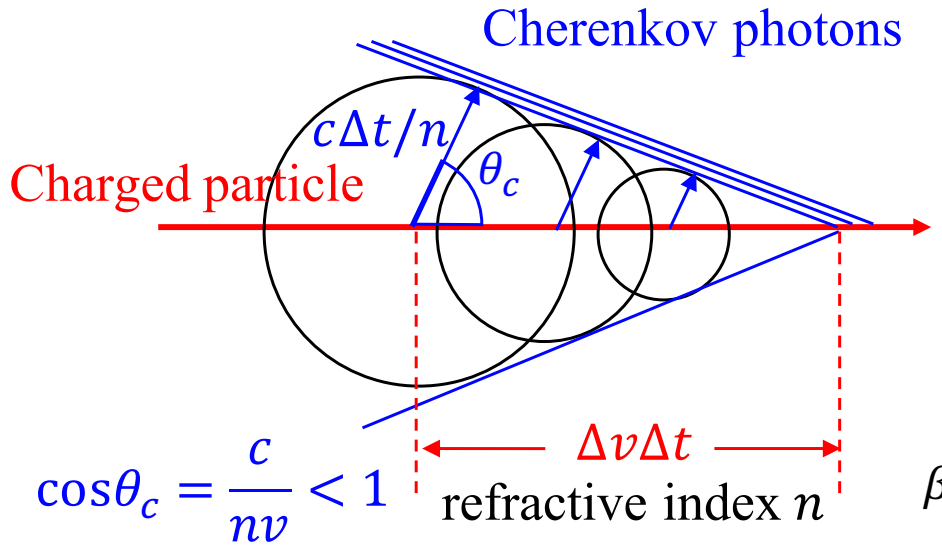
レンジ測定法

- β 線飛程を用いた計数測定
- γ 線がBGになるが、10分で数Bq/g (500-1000 Bk/kg@1時間)

チェレンコフ光検出手法

- 90Yからの β 線だけがチェレンコフ放射する閾値型チェレンコフ検出器
- $n=1.047$ のシリカエアロゲルで先行研究
- $\text{Eff.}(\beta(137\text{Cs}))/\text{Eff.}(\beta(90\text{Y})) = (2\sim 4)\times 10^{-2}$.

3. 環境放射能測定

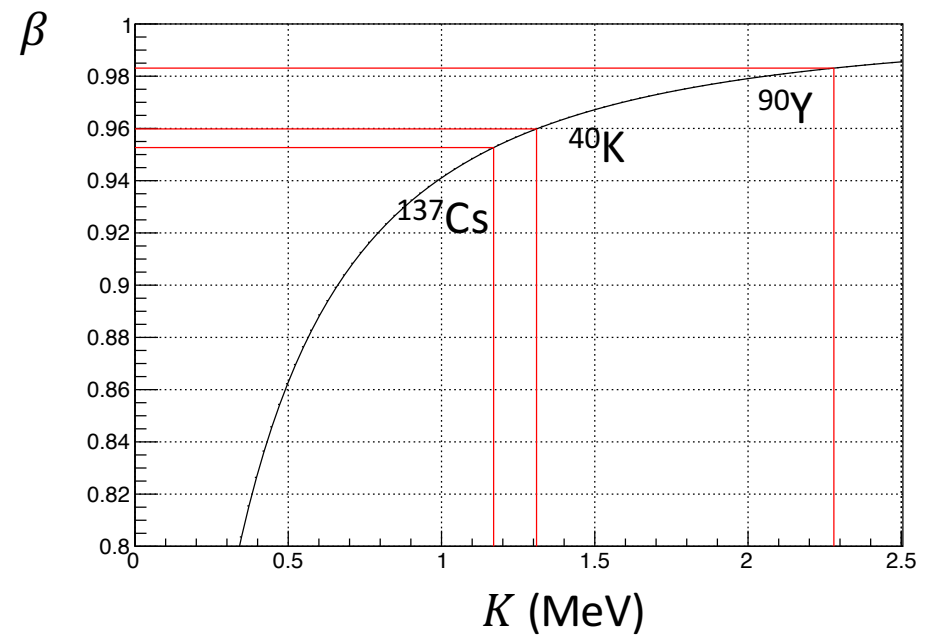


カリウム40からの1.31 MeVβ線で
チェレンコフ放射しない屈折率

電子運動エネルギー K
電子速度 β

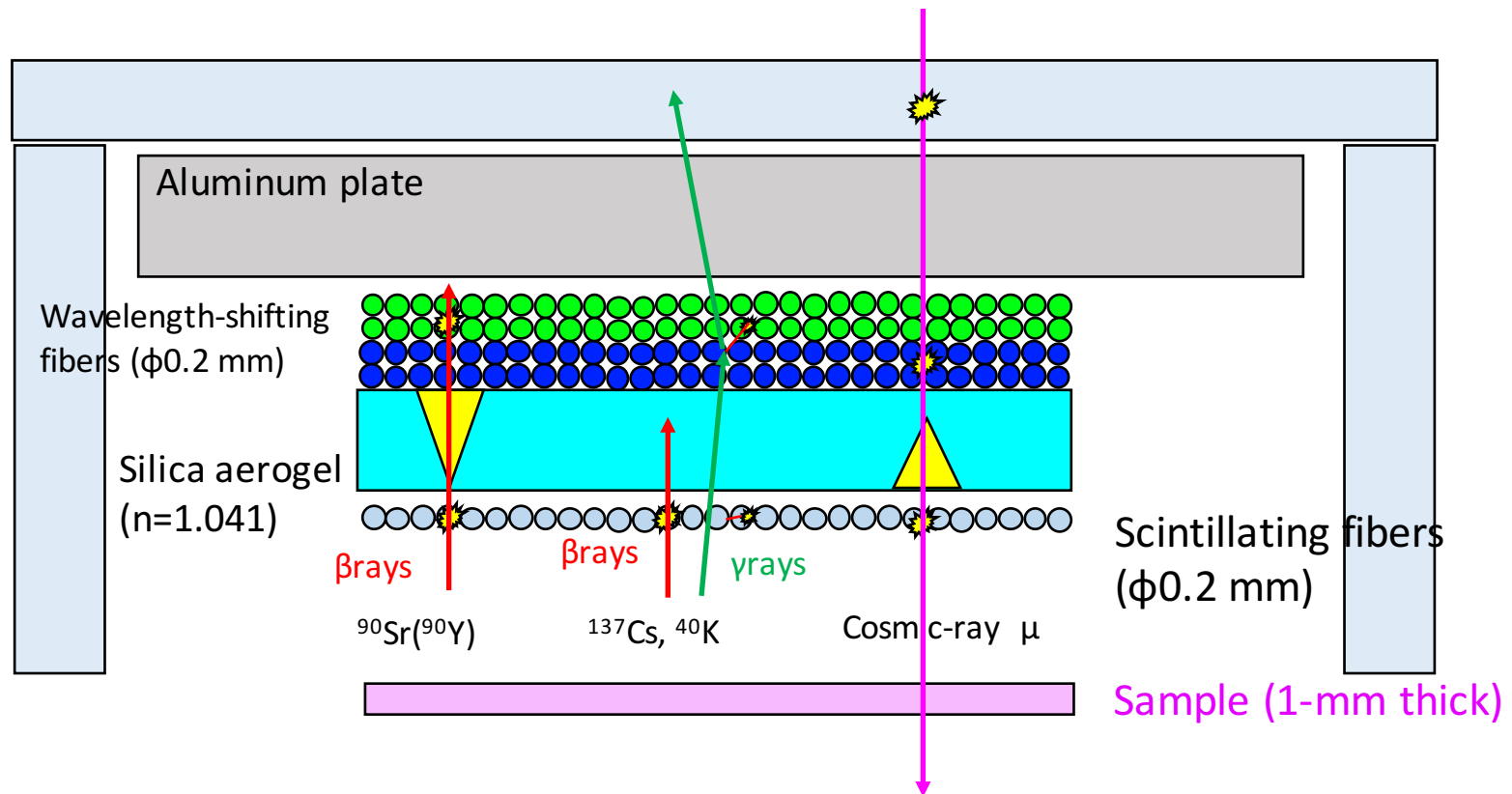
$$\beta = \frac{mc^2 + K}{\sqrt{(m_e c^2 + K)^2 - m_e^2 c^4}}$$

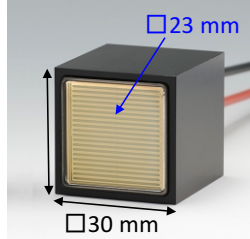
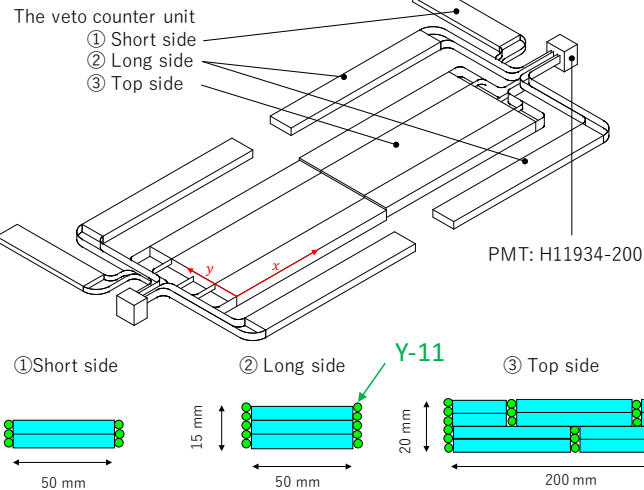
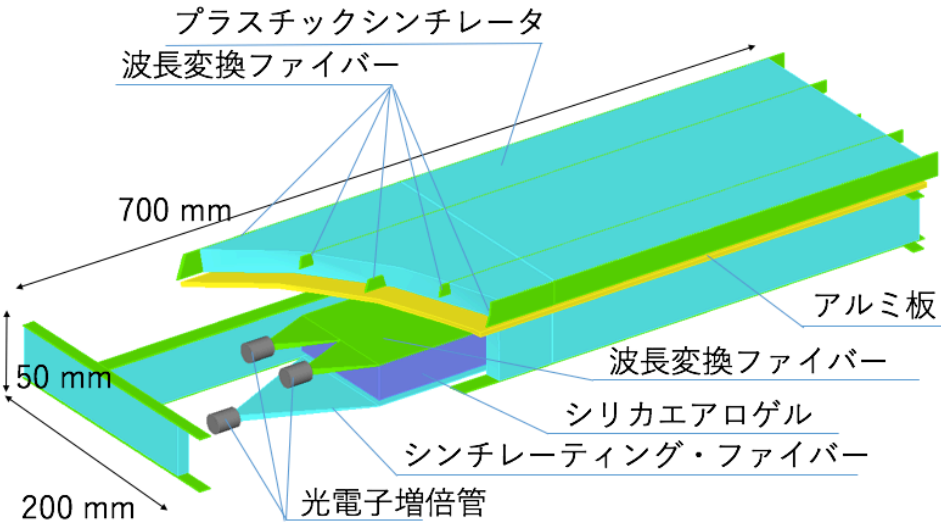
$\beta_{40K} = 0.96$
 $n_{th} < 1.042$



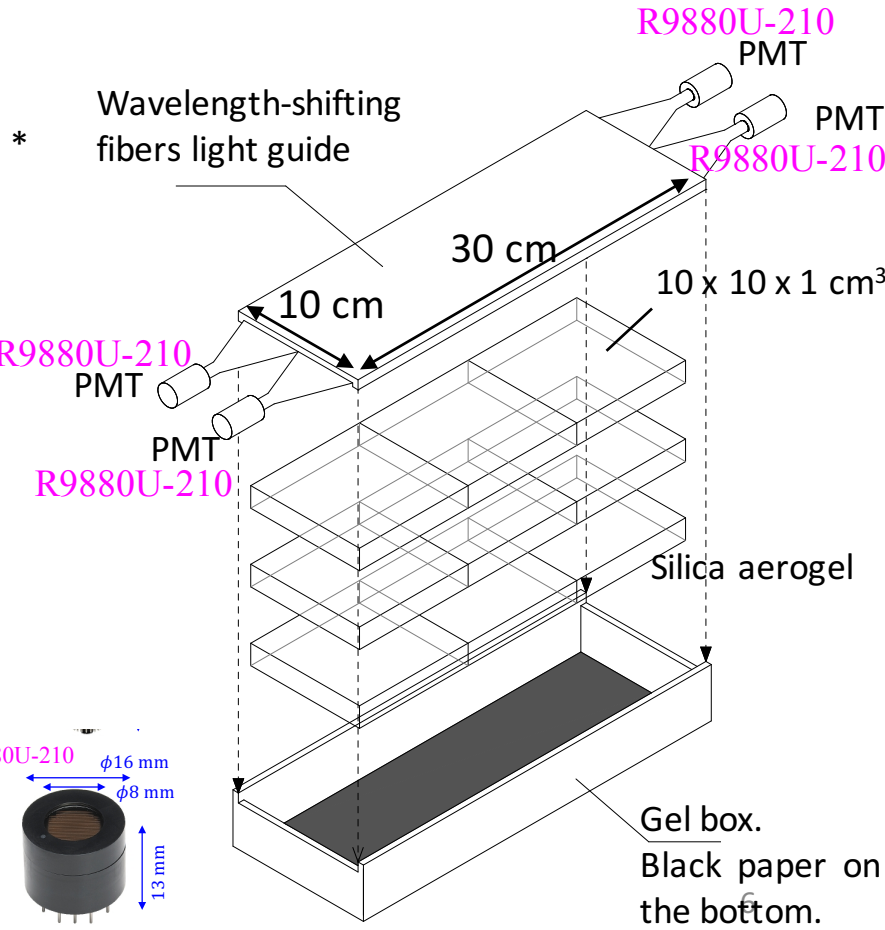
3. 環境放射能測定

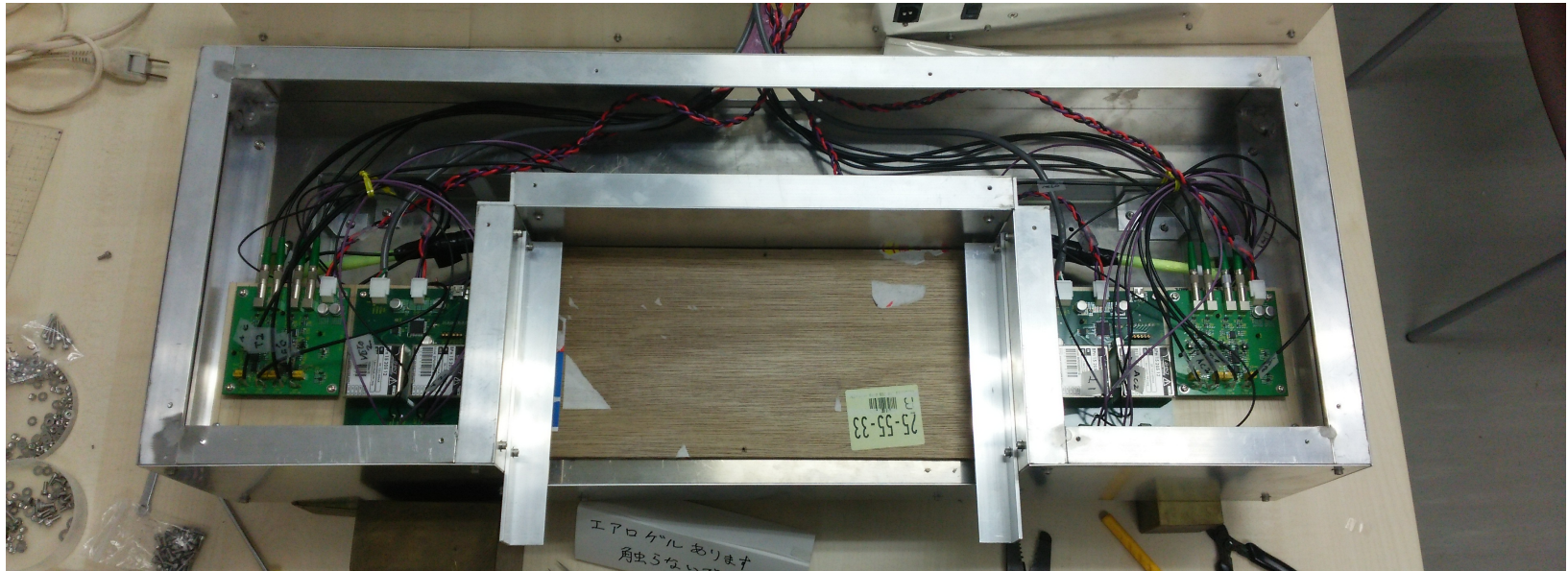
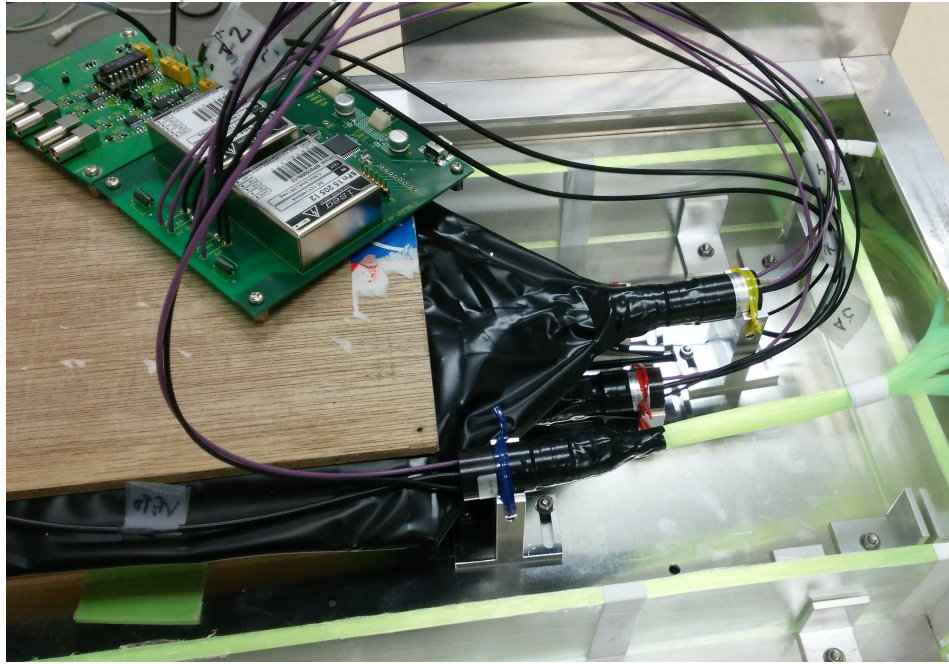
リアルタイムストロンチウム90カウンター





- Photocathode
 - □23 mm
 - Ultra Bialkali
- Metal Channel Dynode

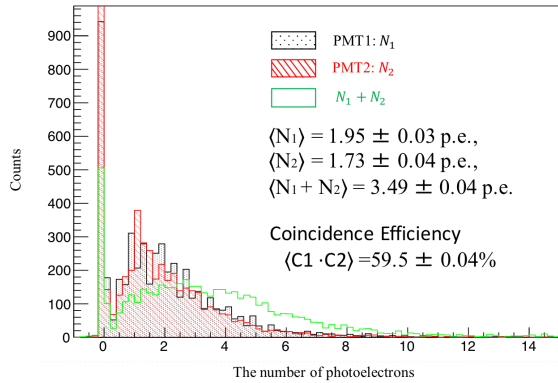




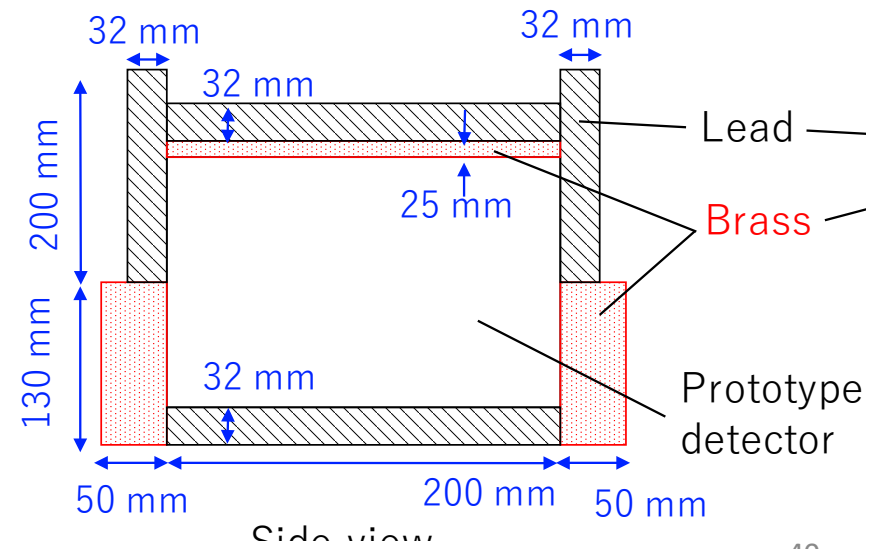
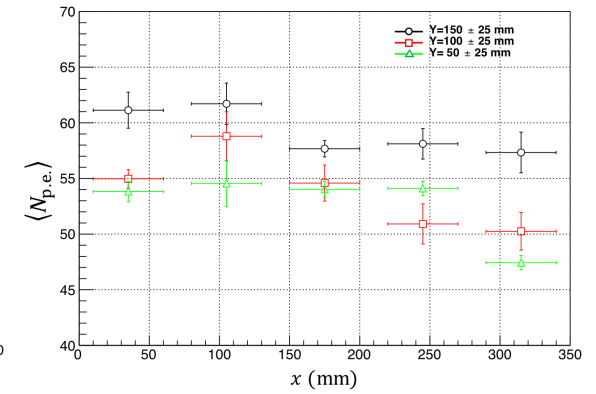
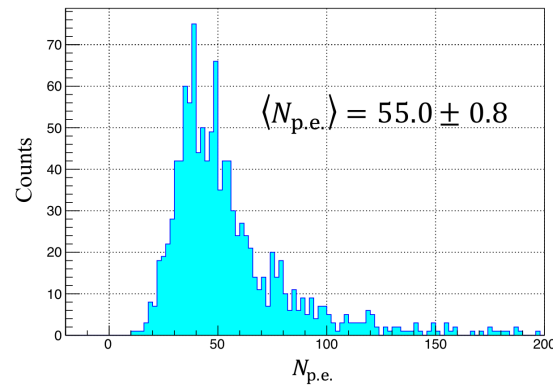
2017/10/27

3. 環境放射能測定

Trigger counter performance

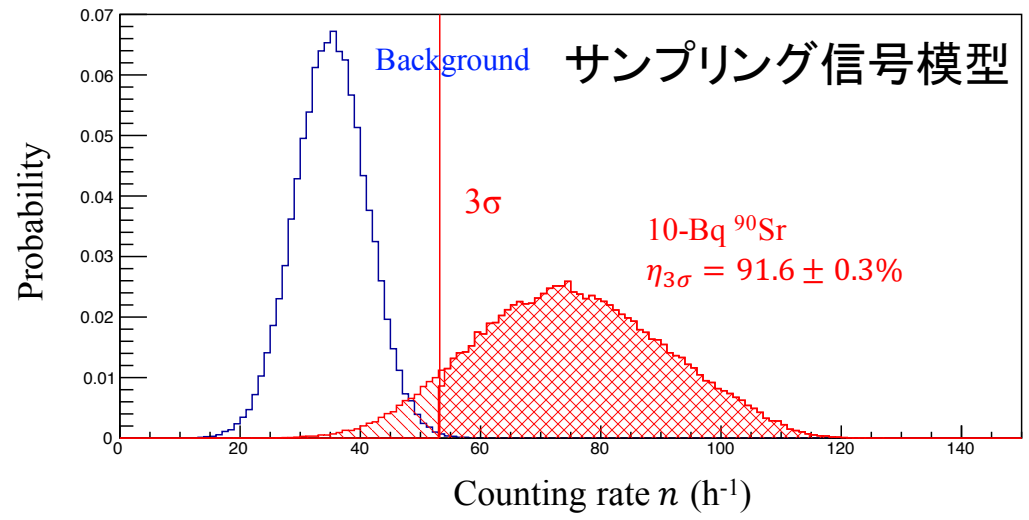


Cosmic-ray veto counter performance



ウラン・トリウム系列核種からのBGを抑制

3. 環境放射能測定



$$\Gamma_{\text{BG}}(n) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma_{\text{BG}}^2}} \exp\left\{-\frac{(n - \nu_{\text{BG}})^2}{2\sigma_{\text{BG}}^2}\right\},$$

$$\nu_{\text{BG}} = 35.1 \text{ h}^{-1}$$

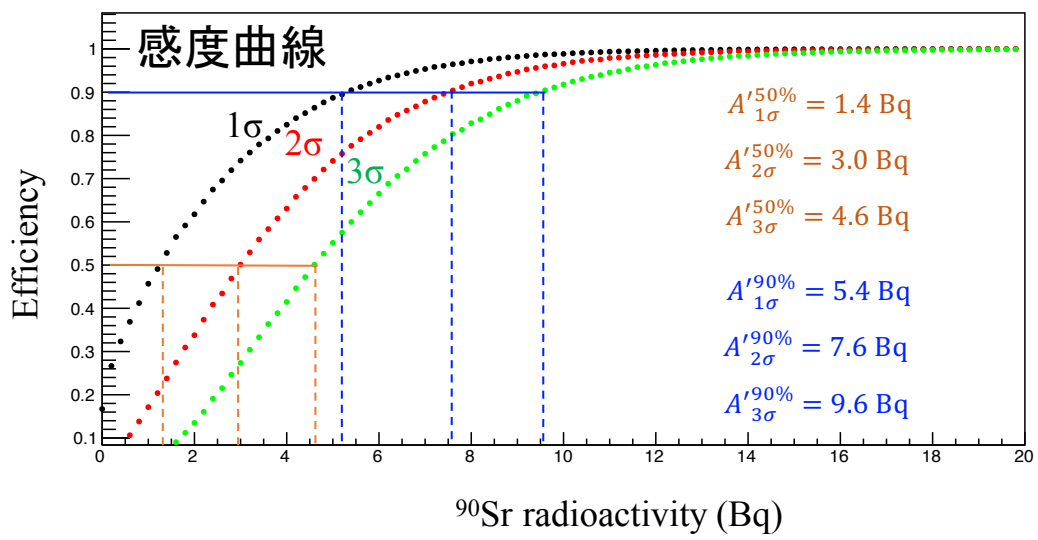
$$\sigma_{\text{BG}} = 6.0 \text{ h}^{-1}$$

$$\phi_x(n) = \frac{e^{-\nu/\alpha^2} (\nu/\alpha^2)^{n/\alpha^2}}{\Gamma(n/\alpha^2 + 1)}$$

$$\Gamma_x(n) = \int d\tilde{n} \phi_x(\tilde{n}) \cdot \Gamma_{\text{BG}}(\tilde{n} - n),$$

$$k_{\text{Sr}} = \nu_{\text{Sr}}/A_{\text{Sr}}$$

Source	α	k ($\text{Bq}^{-1} \text{ h}^{-1}$)
^{90}Sr	2.50 ± 0.50	6.23 ± 0.13
^{137}Cs	0.532 ± 0.044	$(4.77 \pm 0.09) \times 10^{-3}$
^{40}K	1.067 ± 0.106	$(1.95 \pm 0.04) \times 10^{-2}$



乾燥した海産物サンプルの密度 1 g/cm^3 、
 体積圧縮率 $\epsilon=0.3$ 、厚さ 1 mm 、質量 $m=30 \text{ g}$ とすると1時間測定における検出限界は、

$$A_{3\sigma}^{50\%} m \epsilon^{-1} = 46 \text{ Bq/kg}$$

$A \propto S^{-1}$; it expected to be
 $8.4 \text{ Bq/kg @S=1 m}^2$

海水における検出限界は

$$A_{3\sigma}^{50\%} m \epsilon^{-1} = 1.5 \text{ Bq/L}$$

3. 環境放射能測定

ストロンチウム90カウンターの今後



化学抽出法で事前に90Srを測った土壌サンプルをスクリーニング



数Bq/kgの90Srが実際に測定できるか検証



サンプル統計数をためて性能評価



海産物・生鮮食品に置き換えてスクリーニング検査



漁港に実戦配備！！

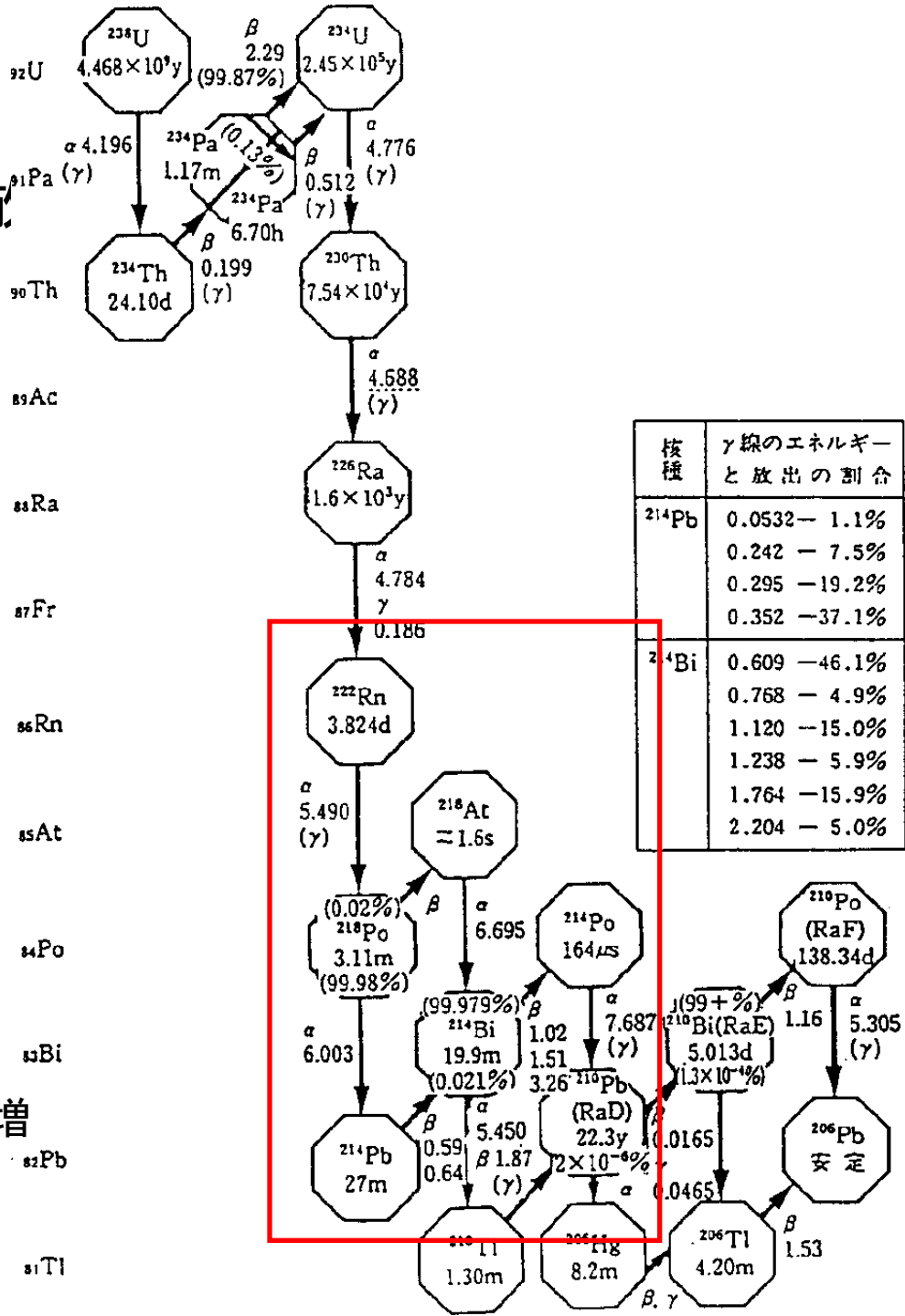
3. 環境放射

空气中²¹⁴Bi測定

- ⁹⁰Sr測定におけるバックグラウンドが環境中²¹⁴Biと²⁰⁸Tlからのγ線
- 1.5 MeV以上のγ線のコンプトン散乱
- 反跳電子のエネルギーは1.31 MeV以上

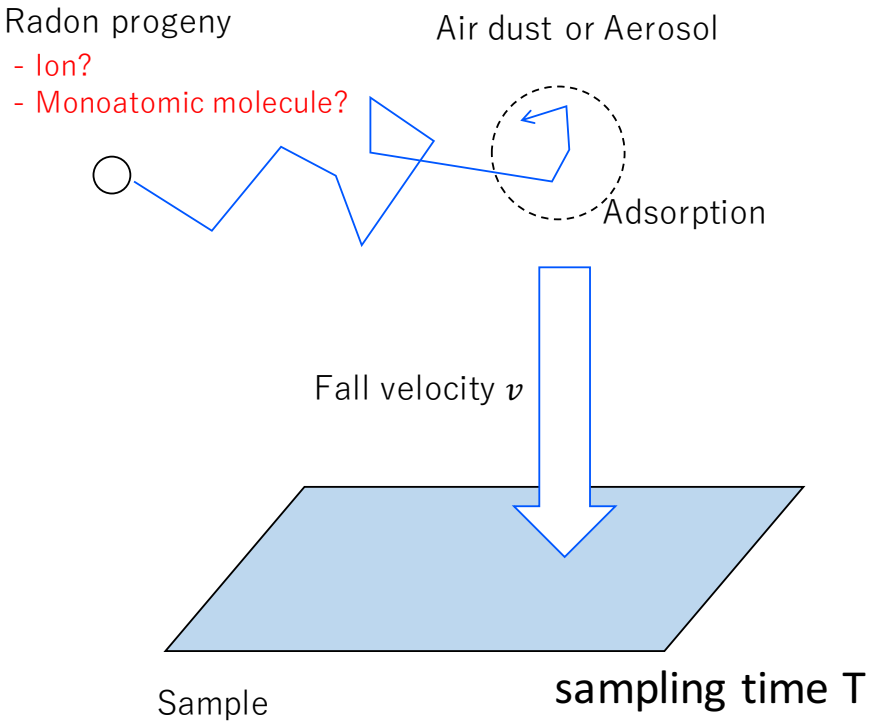
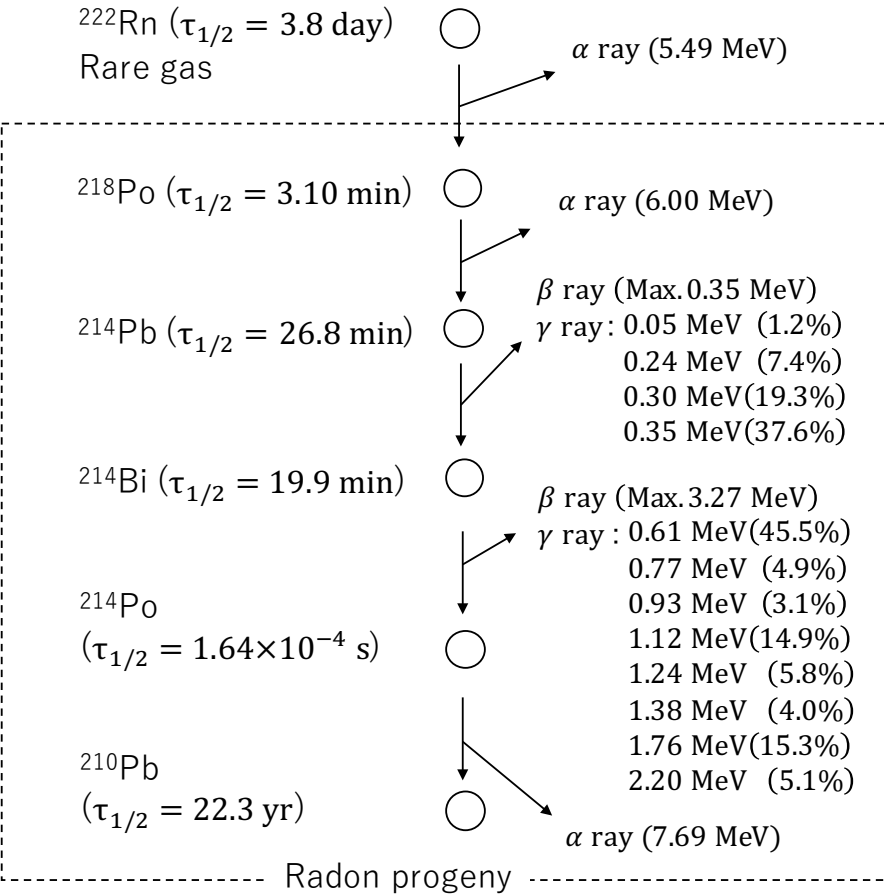
- ラドンは空气中に存在
- 崩壊後Po, Pb, Biは地面にすぐ落ちる？
- 空气中にPo, Pb, Biが漂っているはず

- ラドン吸入による被曝線量 1.1 mSv
- ラドンと肺がんの相関関係
- 100 Bq/m³上昇で非喫煙肺がん患者8%増
- 孫核の吸入が肺がんの関係しているかも？



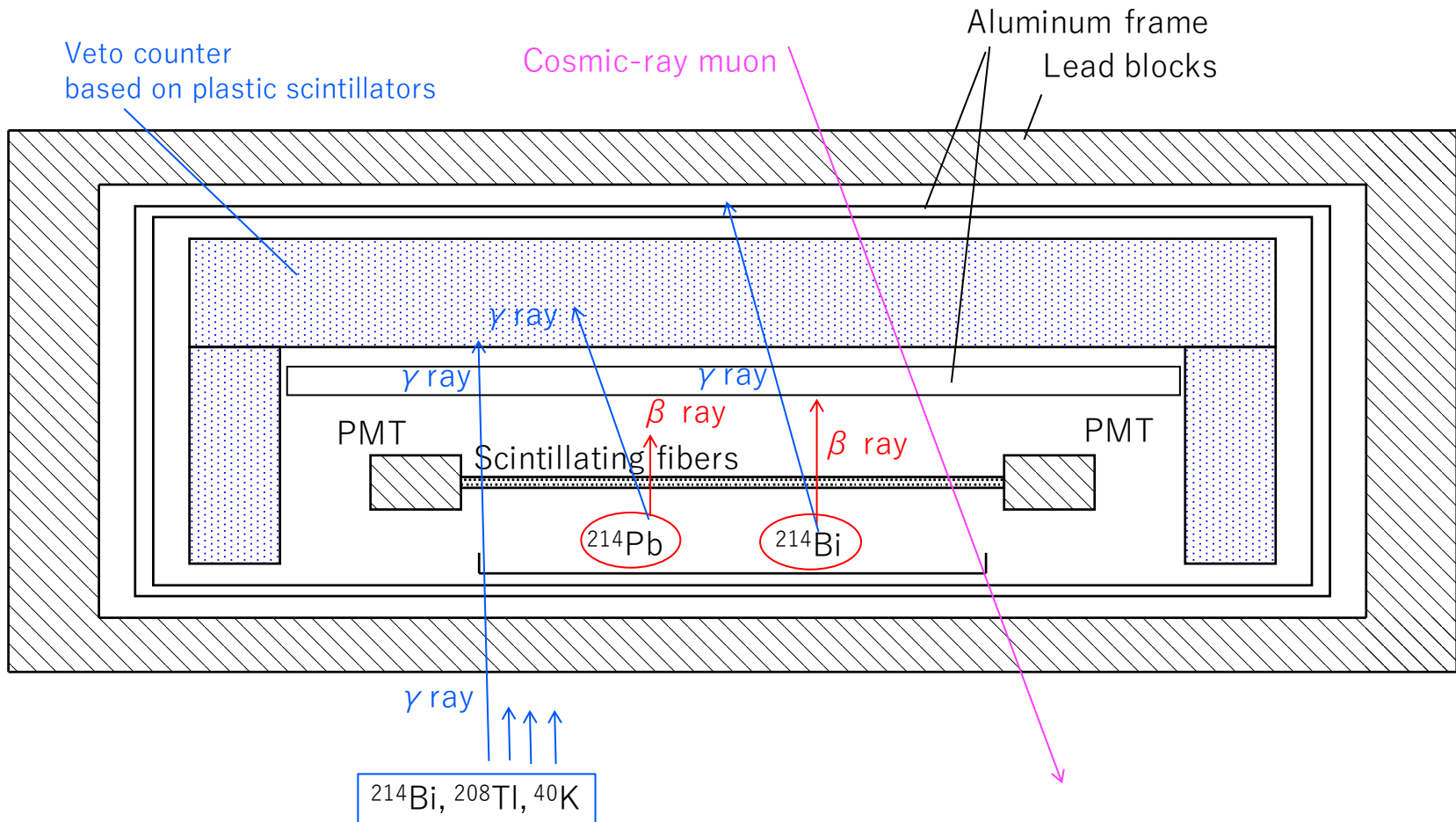
3. 環境放射能測定

サンプリングシート測定

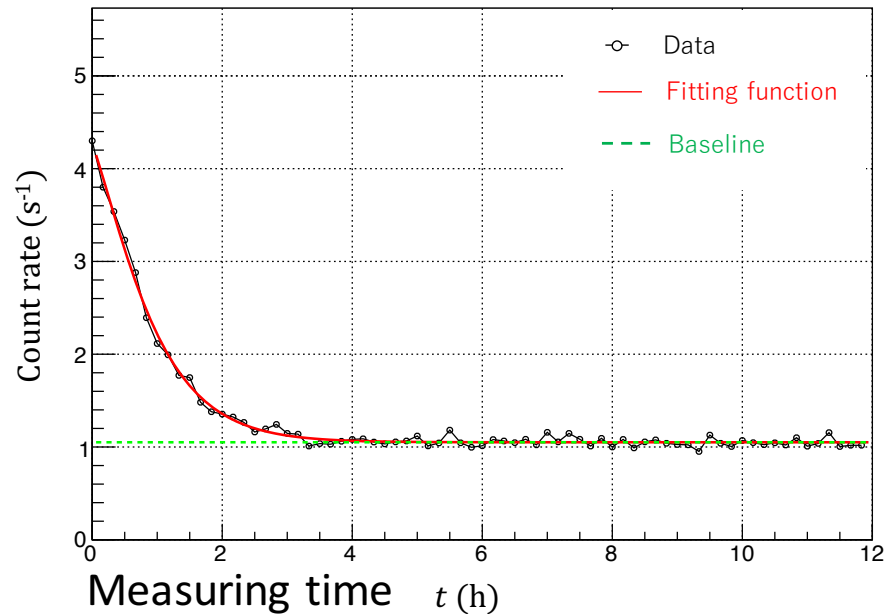


ラドン孫核はエアロゾルに吸着されて落下する。
吸着率はわかってない。
空気中に孫核が漂っている可能性がある。

3. 環境放射能測定



3. 環境放射能測定



$j=1, 2, 3$ is (^{218}Po , ^{214}Pb , ^{214}Bi)

$k\rho=1.15$

$\varepsilon_1^\alpha = 0.0001$	$\lambda_1 = 7.76 \times 10^{-3} \text{ s}^{-1}$
$\varepsilon_2^\beta = 0.0591$	$\lambda_2 = 8.97 \times 10^{-4} \text{ s}^{-1}$
$\varepsilon_3^{\beta\gamma} = 0.2051$	$\lambda_3 = 1.21 \times 10^{-3} \text{ s}^{-1}$
$\varepsilon_{\text{Sr}} = 0.3161$	$\eta_{\text{Sr}} = (8.89 \pm 0.04) \times 10^2 \text{ Bq}^{-1} \text{ h}^{-1}$

$$f(t) = \left\{ A_1 \varepsilon_1^\alpha + A_2 \varepsilon_2^\beta + A_3 \varepsilon_3^{\beta\gamma} \right\} \frac{\eta_{\text{Sr}} k \rho}{2 \varepsilon_{\text{Sr}}} + R_{\text{BG}},$$

$$\begin{cases} A_1(t) = -\frac{dN_1(t)}{dt} = \lambda_1 N_1(t) \\ A_2(t) = -\frac{dN_2(t)}{dt} = \lambda_2 N_2(t) - \lambda_1 N_1(t) \\ A_3(t) = -\frac{dN_3(t)}{dt} = \lambda_3 N_3(t) - \lambda_2 N_2(t), \end{cases}$$

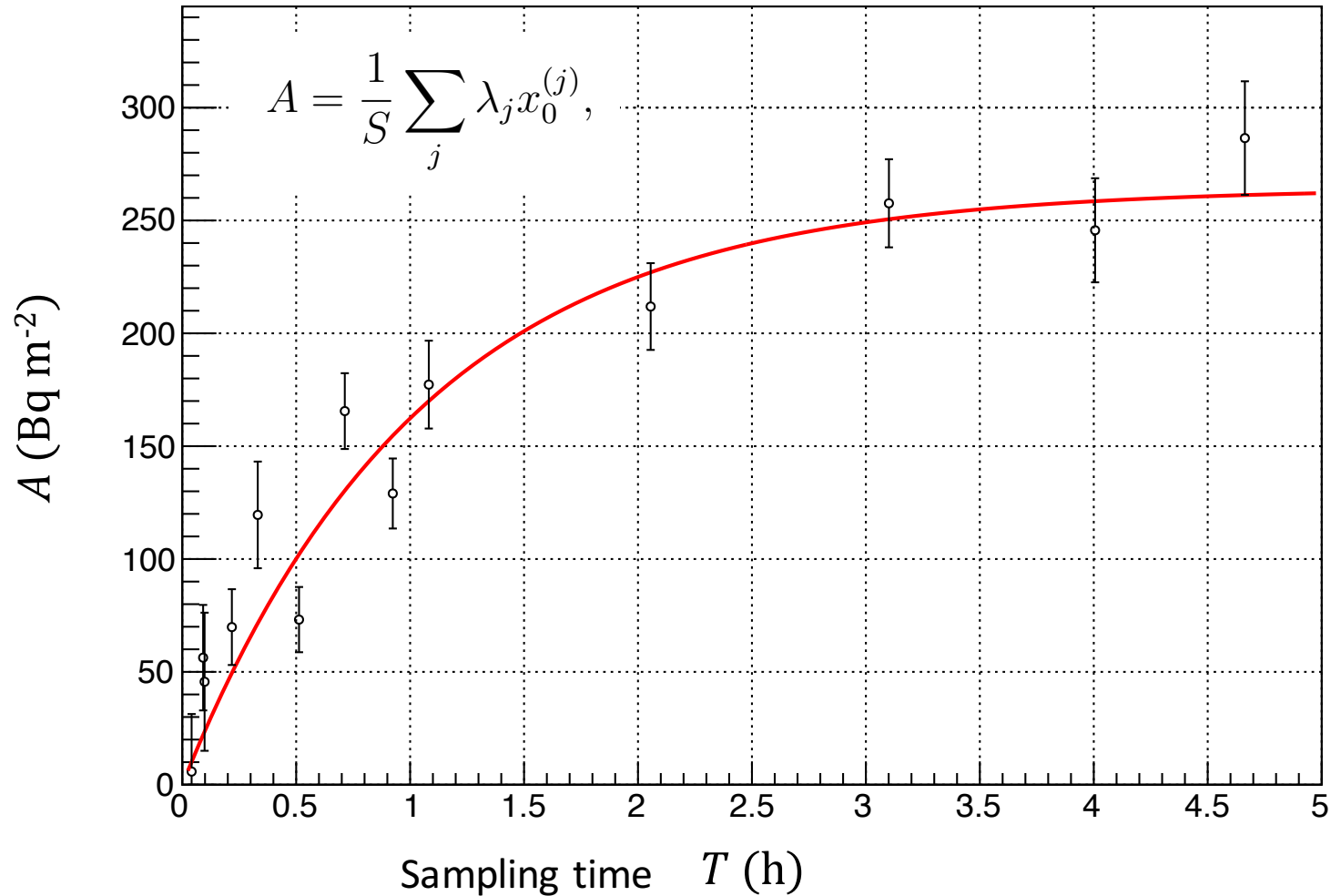
$$A_1 = \lambda_1 \underline{x_0^{(1)}} e^{-\lambda_1 t},$$

$$A_2 = \frac{\lambda_1 \underline{x_0^{(1)}}}{\lambda_2 - \lambda_1} \left\{ \lambda_1 e^{-\lambda_1 t} - \lambda_2 e^{-\lambda_2 t} \right\} + \lambda_2 \underline{x_0^{(2)}} e^{-\lambda_2 t},$$

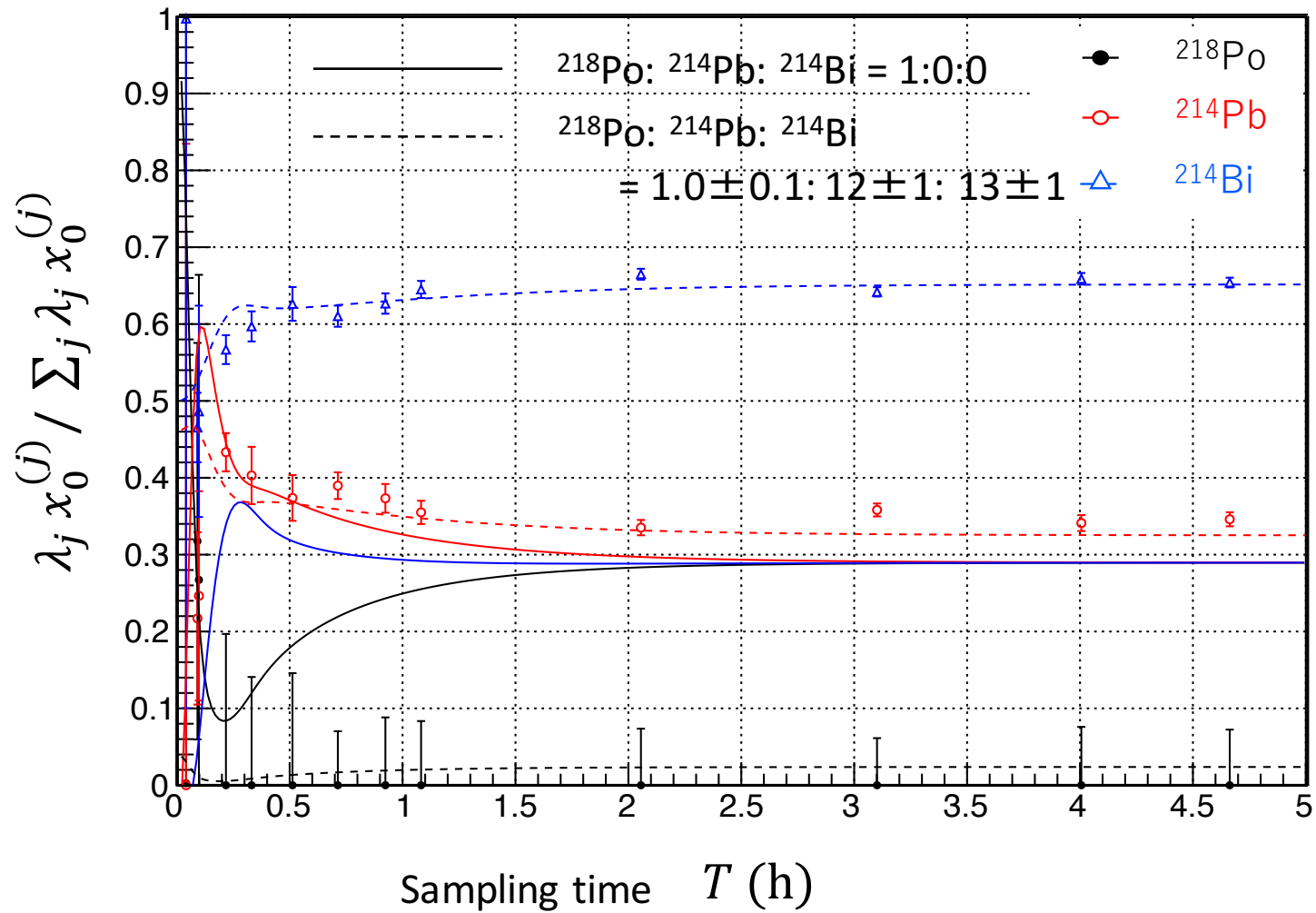
$$A_3 = \frac{\lambda_1 \lambda_2 \underline{x_0^{(1)}}}{(\lambda_3 - \lambda_1)(\lambda_3 - \lambda_2)} \left\{ \lambda_1 e^{-\lambda_1 t} - \lambda_2 e^{-\lambda_2 t} - \lambda_3 e^{-\lambda_3 t} \right\} + \frac{\lambda_2 \underline{x_0^{(2)}}}{\lambda_3 - \lambda_2} \left\{ \lambda_2 e^{-\lambda_2 t} - \lambda_3 e^{-\lambda_3 t} \right\} + \lambda_3 \underline{x_0^{(3)}} e^{-\lambda_3 t}.$$

$x_0^{(j)}$... $t=0$ sでサンプルに付着していた核種の数
フィットのFree Parameters

3. 環境放射能測定



3. 環境放射能測定



3. 環境放射能測定

まとめ

- 福島県沖漁業復興のためのストロンチウム90カウンターを閾値型エアロゲルチェレンコフ検出器を基にして開発した。
- 波長変換ファイバーを用いて有効面積を拡張して、海産物において検出限界は46 Bq/kgと評価された。
- 実際に ^{90}Sr をサンプリングするための研究が始まった。
- 背景雑音を調べると空気中 ^{214}Bi について気になりだした。
- サンプルシート測定法はエアロゾルに吸着されたラドン孫核を自然落下で捕集し、 β 線で観測する。
- この実験で空気中に孫核 Po , Pb , Bi は漂っていることを明らかにした。
- エアロゾルにおける孫核の吸着率測定のための実験計画中。